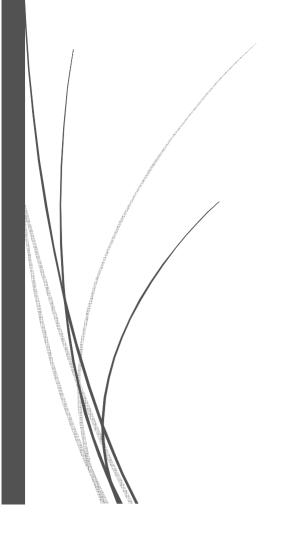
平成 27 年度

公益財団法人しまね自然と環境財団



 島 根 県 立 三 瓶 自 然 館 サ ヒ ノ ル

 三 瓶 小 豆 原 埋 没 林 公 園

 三 瓶 山 北 の 原 キ ャ ン ブ 陽

 L まね I コライフサボートセンター

はじめに

平成27年度は三瓶自然館および附属施設の第3期指定管理期間(27~34年度)の初年度でした。財団にとっても大切な新たなスタートの年と位置づけ、これまでの管理運営のノウハウを生かすとともに、県民ニーズや社会情勢などの変化に迅速に応えるような柔軟性を持ち、加えて職員の創意工夫を生かしながら、さらに一層魅力的な施設となるよう取り組んできたところです。

当館は島根県の自然系博物館として、自然豊かな国立公園三瓶山をフィールドに自然に親しむ場の提供や、展示や普及啓発、資料収集、調査研究などを進め多くの皆さんにご利用いただいております。

27 年度の春の企画展は、星空と地上風景を同時に撮影した「星景写真」の展示を行い、夏の企画展「さんベホネホネ研究所」では生物の骨格標本の展示を通じて環境に適応するため進化した体のつくりについて取り上げました。年間を通してたくさんのみなさんに訪れていただくこれらの企画展は、当館が最も力を入れて取り組んでいる事業の一つであります。企画運営広報などを通じて自然館からのメッセージが伝わるよう、また、来館者のニーズに応えられるように努めたところです。

このような企画展を中心に当館に足を運んでいただいた皆さんは、県内外の小中学生を中心に 27 年度も 10 万人を超え、博物館を楽しみながら自然科学に親しんでいただいたものと思っています。

また、三瓶小豆原埋没林公園では、わかりやすく伝わりやすい展示案内とするため、説明 資料の充実とともに、入館前のガイダンスを試験的に実施し、埋没林の持つ学術的価値と魅力が伝わるよう努めております。

一方、財団が大田市からの指定管理者として運営している北の原キャンプ場は、「豊かな自然環境を生かし、自然に親しむ場」となるよう管理運営に心がけました。三瓶山やキャンプ場の一層の認知度の向上に向け、大田市、飯南町、美郷町で構成する三瓶広域ツーリズム振興協議会の山陽方面への PR 活動にも参加し、9 月のシルバーウィークには満員の盛況を博したところです。

松江事務所を中心に進めている環境保全活動事業は、行政や財団主導の活動から地域の環境保全活動を担うボランティアが自主的、主体的に活動できるよう引き続き支援を行ってきているところです。

これからも引き続き、創意工夫しながら財団運営に取り組み、博物館としてのスキルアップを図り、皆さんから期待され応援いただける施設となるよう職員一同努めて参ります。

平成 28 年 5 月

公益財団法人 しまね自然と環境財団

理事長 廣澤卓嗣

平成27年度 事業報告書 目次

I. (公財)しまね自然と環境財団の概要	4 地域との連携、その他の事業・・・・・・43
1 財団の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 (1) 地域との連携
2 財団の事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 (2) 他施設との連携
3 運営方針	1 (3) 行政への協力
4 財団の管理する施設の概要・・・・・・・・・	2 (4) 各種研修の受け入れ
5 組 織	
Ⅱ.島根県立三瓶自然館及び	Ⅲ. 地球環境の保全に関する
附属施設の運営事業	活動支援事業
(三瓶自然館等運営事業)	(環境保全活動支援事業)
1 運営状況	
(1) 三瓶自然館	2 地球温暖化対策 · · · · · 47
①常設展示	3 県民の3R推進事業····· 56
②企画展	4 環境保全活動支援 · · · · · 57
③その他の展示	
④ビジュアルドーム	Ⅳ.北の原キャンプ場の管理運営事業
⑤各種イベント	1 利用促進業務 … 61
⑥各種行事	2 管理体制 … 62
⑦新聞への寄稿	3 施設維持管理 · · · · · · · 62
⑧自然学講座	4 利用状況及び収支状況・・・・・・ 62
⑨天体観察会	5 自主事業 … 63
⑩自然観察会	6 その他の事業 64
⑪環境教育•環境学習事業	(1) 地域と連携した観光振興に関する事業
⑫博物館ボランティアの活動	(2) 大田市全体及び三瓶山周辺観光の
(2) 三瓶小豆原埋没林公園	インフォメーション機能を担う事業
(3) 施設PR事業	(3) 三瓶広域ツーリズム振興協議会への参画
(4) 施設の維持管理	
	V. 施設利用者への利便提供事業
2 調查研究・資料収集 整理事業・・	
(1) 事業概要	2 貸出事業・・・・・・・・・・・・・・・・・65
(2) 調査研究	
(3) 資料の収集・整理	Ⅵ. 各種資料(附属明細書)
	1 数値目標を掲げた運営・・・・・・・ 66
3 JSTネットワーク形成	2 利用者数の推移 … 70
先進的科学館連携型	36 3 沿革 … 71
(1) 事業概要	4 関連記事 … 72
(2) 事業内容	5 資料 … 78
	6 評議員会•理事会 · · · · · · · · 84

I. (公財)しまね自然と環境財団の概要

1. 財団の目的

公益財団法人しまね自然と環境財団は、島根県内の自然系博物館施設及び自然公園施設等の管理運営を通じ、自然公園の保護と利用の増進に資するとともに、地球環境保全、自然環境の保護及びその他の環境の保全に関する普及啓発事業等を行い、広く県民に対して環境の保全の重要性を訴え、もって島根県の環境の保全及び地域の振興に寄与することを目的とする。

2. 財団の事業

- (1) 自然系博物館施設及び展示施設の管理運営事業
- (2) 自然保護及び自然環境に関する調査研究、並びに普及啓発事業
- (3) 環境教育及び環境学習に関する事業
- (4) 地球環境の保全に関する活動支援事業
- (5) 自然資源の利用促進等を通した地域振興事業
- (6) その他、この法人の公益目的を達成するために必要な事業

3. 運営方針

当財団は、島根県立三瓶自然館及びその附属施設(三瓶小豆原埋没林公園)、大田市の施設である北の原キャンプ場の指定管理者として、それぞれ島根県並びに大田市から指定されている。

これらの施設の運営にあたっては、次の6つの基本方針を共有しながら、各施設の特色を発揮 させるとともに、法人として「自然に関するシンクタンク」的役割を担い、もって社会に貢献して いくことを目指している。

- ・企画展、観察会や各種イベントを充実し、自然に親しむ場、自然を学ぶ場を提供する。
- ・学校、大学や研究機関、地域とのつながりを大切にした運営をする。
- ・調査研究、博物館資料の収集保管に力を入れ、バックボーンがしっかりした博物館を目指す。
- ・SNSやマスメディアを利用した情報発信、PRを行い、もっと身近な三瓶自然館を目指す。
- ・心のこもったおもてなしと、不測の事態に備えた点検、訓練を実施し、安心して何度でも利 用したくなる施設を目指す。
- ・入館者を確保し、入館料収入の確保を目指すとともに、経費の節減に努め、安定した経営を 目指す。

また、松江事務所を中心に展開する県民への環境保全活動支援では、事務所の愛称を「しまね エコライフサポートセンター(エコサポしまね)」とし、地球温暖化をはじめとする地球環境の 課題の啓発を図り、各キャンペーンや環境保全活動への助成を行っている。事業実施にあたって は行政機関や三瓶自然館等の施設との連携を密にして、効率的で効果的な事業展開に努める。

■ 4. 財団の管理する施設の概要

(1)島根県立三瓶自然館サヒメル

島根や三瓶の自然、三瓶小豆原埋没林、環日本海の自然に関する展示、プラネタリウムや大型ドーム映像を映し出すビジュアルドーム、天体観察施設、博物館資料の収蔵庫、研究室などを備えた自然系博物館であり、三瓶山全体をひとつの野外博物館と考える三瓶フィールドミュージアムの中核としてビジターセンター機能も兼ね備えた施設である。



所 在 地 島根県大田市三瓶町多根 1121 番 8

開設年月日 平成3年10月19日(平成14年4月18日拡充開館)

面 積 敷地面積 14,822 m²

建築面積総計 4,442 m²

建物延べ床面積総計 8,513 m²

施 設 内 容 本館 常設展示(島根県と三瓶の自然)、ビジュアルドーム、受付、売店

別館 レクチャールーム、企画展示室

新館 常設展示(小豆原埋没林、環日本海の自然、フィールドガイド)

天体観察施設、収蔵庫、研究室、文献図書館など

附属施設 三瓶山ヘルシートレイリングコース(北の原~東の原 片道 4.5km)

北の原フィールドセンター、自然観察入門広場、北の原芝生多目的広場

(2)三瓶小豆原埋没林公園

三瓶小豆原埋没林公園は、約4千年前の三瓶山の噴火で埋 もれた埋没林を現地で展示、公開する施設である。

施設は、大小2つの地下展示棟と芝生園地からなる。展示棟では、原位置のままで立ち並ぶ埋没樹を展示している。芝生園地は、発掘調査で確認された埋没林を埋め戻し保存している範囲である。当施設の敷地範囲が天然記念物(国)に指定されており、埋没林の保存管理も施設の役割である。

所 在 地 島根県大田市三瓶町多根口58番2

開設年月日 平成15年5月2日

面 積 敷地面積 約 10,000 ㎡

延面積

管理棟 142.56 m²
 大展示棟 1,142.59 m²
 小展示棟 97.09 m²

(延面積合計) 1,382.24 ㎡

施設内容 管理棟 受付、売店、事務室、機械室

大展示棟 展示室、機械室

小展示棟 展示室



(3) 三瓶山北の原キャンプ場

三瓶山北の原キャンプ場は、国立公園三瓶山の広大な自然の中にある県立キャンプ場として、昭和44年に開場した。この47年間の利用者は89万人を超え、多くの県民の憩いの場としての役割を果たしてきた。当財団は、平成4年度からは県からの受託、17年度からは指定管理者として管理運営を行ってきた。平成22年度からは大田市の施設となったが、市の指定管理者として、引き続き管理運営を行っている。



家族向けのオートキャンプサイト、山小屋風のケビンに

加え、団体に対応した集団キャンプサイトにキャンプファイヤー場もあり、学校団体や企業の職員 研修等にも利用されている。炊事等やシャワー棟、ランドリー施設も整備されている。

また平成24年度から大田市により、大と泊まれるバンガローとドッグランが設置されており、大 と泊まれて遊べる環境も整備されている。

所 在 地 島根県大田市三瓶町多根1121番1

開 設 年 昭和44年

面 積 敷地面積 180,891 m²

施設内容 セントラルロッジ 受付、事務室、多目的ホール、売店など

オートキャンプサイト 73区画

一般キャンプサイト フリーサイト (テント200張可)

ケビン 大型ケビン3棟 小型ケビン10棟

バンガロー 5棟

ドッグラン 2区画、休憩所2棟

その他(シャワー棟、キャンプファイヤー場、炊事棟、トイレ棟 など)

5. 組 織

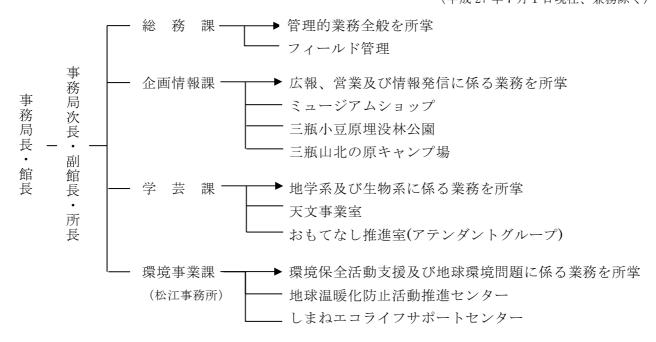
□評議員・役員名簿

<評 議 員>		く役 員>	
議長	平塚貴彦	理 事 長	廣澤卓嗣
評 議 員	家本 賢 (~H27.6/24)	常務理事	板倉宏文(~H27.6/24)
	齋藤晃大(H27.6/24~)		酒井浩純(H27.6/24~)
	鈴垣英晃	理事	石田弘行
	高瀬寿子	IJ	末成弘明
	高橋泰子	IJ	栂 恒雄
	宮永龍一	監事	大谷正幸
	蓮花正晴	IJ	中原良輝
	(役毎にアイウエオ順)		(役毎にアイウエオ順)

□三瓶自然館運営委員名簿

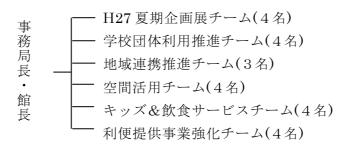
委 員 長	島田一嗣	委員	藤井好文
委 員	秋吉英雄	<i>II</i>	松井律子
IJ	今井 靖(H27.7.1~)	<i>II</i>	松浦光芳
IJ	皆田修司	<i>II</i>	松本一郎
IJ	中村佐恵子	<i>II</i>	丸山 永
IJ	初見眞知子	<i>II</i>	宮崎康之
"	藤井伸治	IJ	山口啓子

□事務局(役員 1 人、総合職員 16 人、専門職員 10 人、一般職員 17 人、臨時職員 15 人 計 59 人) (平成 27 年 7 月 1 日現在、兼務除く)



ロプロジェクトチーム (平成 27 年 7 月 1 日現在)

重点課題や特定の業務を処理するため、課の枠を超えた職員構成によるプロジェクトチームを設置し対応にあたった。



□職員名簿(平成27年7月1日現在) 59名(兼務除く。正職員44、臨時職員15名)

<統 括>

事務局長·館長	酒井	浩純
副館長	龍	善暢
事務局次長	帯刀	公平

<総務課>11名

課		長	石田 浩二
企	画	幹	米浦 道子
主		事	田原いづみ
	"		中山はるか
	"		山本健太郎

(フィールド管理)

スタッフ	廣岡	朗
II .	中田	政春
II .	大谷	文子
II .	三輪	洋二
"	大上	雅史
IJ	石田	信助

<企画情報課>17 名

(うち	兼務 1)
帯刀	公平
中村	唯史
熊谷	正浩
安原	豊子
竹下	瑠美
山根	瞬
	帯村谷原下

(三瓶小豆原埋没林公園)			
チーフ	小原	(保子	
サブチーフ	山本	宏之	
スタッフ	大野和	と津香	
IJ	夕永	好彦	
(北の原キャンプ	'場)		
チーフ	桐原	信夫	
スタッフ	藤原	昌己	
IJ	岡田	档	
IJ	西本耳	[理子	
IJ	太田	和良	
IJ	小丸	政美	
"	岩倉	敏氧	

<学芸課>26名(うち兼務3)

\ +	云砵	/20 石()	り飛伤	3)
課長	長(取	扱)	龍	善暢
課長	長代理	E	井上	雅仁
			((植物)
地質	重担当	á(兼務)	中村	唯史
			((地質)
企	画	幹	星野田	自美子
			((鳥類)
企	画	幹	皆木	宏明
			((昆虫)
研	究	員	安藤	誠也
			(13	乳類)
研	究	員	松村	美雪
			((植物)
研	究	員	遠藤	大介
			((地学)
研	究	員	三島	秀夫
			((昆虫)
学芸	芸スゟ	フッフ	石田	弓子
	IJ		松原	勝志

(大)	乙爭爭	(至)		
室		長	竹内	幹蔵
			((天文)
研	究	員	太田	哲朗
			((天文)
研	究	員	矢田	猛士
			((天文)
全天	周映	写技師	南家	明
	"	(兼務)	松村	美雪
(お	もて	なし推進室	≝)	
室		長	大草	秀美
チー	フアテ	ソタ゛ント	林。	りぐ美
サフ゛	チーフア	テンタ゛ント	細田多	頁美子
アラ	テンタ	ブント	槇原	舞
	IJ		小田包	生由香
	<i>))</i>		和田で)みこ
	IJ		宮脇	成美
	<i>))</i>		大谷	朗子
	<i>))</i>		曽田	友子
	JJ		川本	愛祈

< 松江事務所(環境事業課) >6名 所 長 細田 滋 課 長 葭矢 崇司 企 画 幹 野崎 研 企 画 員 伊藤 玲子 期 恵美 川 石原 香織

※網掛け:臨時職員

Ⅱ. 三瓶自然館及び附属施設の運営事業

■ 1. 運営状況

(1) 三瓶自然館

大きな事業としては、夏に企画展「さんベホネホネ研究所」を開催し、関連イベントを 含めて多くの参加者を得た。そのほか、年間を通して季節に応じた各種事業を企画・開催 し、県民が三瓶の自然に触れる場の創出に努めた。

①常設展示

県立の自然系博物館であり、三瓶山地区のビジターセンターであることをふまえ、本館では、島根県および三瓶山の自然について、展示パネル、剥製やレプリカ、映像などの展示を行っている。また新館では、山麓で発見された三瓶小豆原埋没林、島根県を取り巻く環日本海の生いたち、フィールドガイド、天文展示を行っている。

企画展開催中には、常設展示室の一部を企画展会場として利用し、教室風に仕立てた会場で触れるホネを展示するなど、館全体で企画展を楽しめるように工夫した。また、季節に応じての展示物の入れ替え、野外でみられる草花の展示、お正月にあわせた申年展示など、来館者からの要望に応じた解説などを行い、展示への興味関心を深めるよう工夫した。

②企画展

春期介画展「星のある風景写真展」

期 間: 3月21日(金)~5月25日(日)

入場者: 21,434人

星空と地上風景を同時に撮影する「星景(せいけい) 写真」は、天体や天文現象を記録する科学写真であると 同時に、撮影地の自然環境や人々の営みが映し出された 芸術作品でもある。本企画展では、日本の各地や島根県 内で撮影された星景写真の展示を行い、美しい星景写真 の世界を通して、天文や宇宙に加え、それぞれの地域の 自然や文化への興味と関心を高める契機とした。



◆主な展示

□日本・世界各地の星景写真

著名な星景写真家である大西浩次氏(国立 長野高専教授)、東山正宜氏(朝日新聞社)、 原田泰典氏(星空公団)の作品97点を展示 した。



□島根の星景写真

出雲天文同好会、松江星の会、島根天文協会、三瓶自然館インタープリターの会、 三瓶自然館職員による島根の星景写真 64 点を展示した。

口機材展示

天体望遠鏡やカメラを展示した。

口その他の展示

モニターを使いタイムラプス映像 (一定間隔で連続撮影した静止画を組み合わせて作る動画) を紹介した。また、星景写真の撮り方を解説したパネル展示や、スマートフォンやコンパクトデジタルカメラで星景写真の撮影を疑似体験できるコーナーを設置した。

口関連プラネタリウム番組

星景写真の撮り方を紹介するプラネタリウム番組「島根の星景色〜撮ろう!地上と 夜空のアート〜」を投影した

※展示協力:大西浩次、原田泰典、東山正宜、出雲天文同好会、 三瓶自然館インタープリターの会、島根天文協会、松江星の会、 株式会社マゼラン、国際光器

◆関連イベント

口星景写真を撮ってみよう

期 日:4月25日(土)

参加者:29人

内 容:星景写真家・大西浩次氏(独立行政法人国立高等専門学校機構長野工業高等 専門学校 教授)を招き、星景写真の魅力を解説する講座と自身の作品のギャラ リートークを実施した。

口星景写真撮影実習

期 日:4月25日(土)

参加者:15人

内容:大西浩次氏指導のもと、屋外(姫逃池周辺)を撮影場所とし、星景写真の撮影実習を行った。晴天に恵まれ、参加者は各々ポイントを定めて撮影。撮影後には大西氏による参加者作品の講評や撮影テクニックの解説を行った。



ロメガスター特別投影

期 間:4月29日(水)~5月6日(水)

参加者: 4,744人

内容:有限会社大平技研より、約2,200万個の 星を映すことのできる SUPER MEGASTAR IIを借り受け、スタッフによる星空解説 を行った。ゴールデンウィーク期間中は 多い日で1日8回を投影し、来館者に美 しい星空を楽しんでもらえた。なお、 SUPER MEGASTAR IIでのプラネタリウム 投影は、今回が西日本初である。



ロ大平貴之トークショー&特別投影

期 日:4月29日(水) 13:30~15:00

参加者:126人

内容:期間限定のメガスター特別投影に先立ち、開発者の大平貴之氏(有限会社大平 技研代表取締役)を招いて、その開発秘話やメガスターの仕組みについてのト ークショーと、自身による投影を行った。メガスターの特別投影及び大平氏の トークショーは、当館では6年ぶり2度目である。

夏期企画展 「さんベホネホネ研究所」

期 間: 7月17日(金)~9月27日(日)

入場者: 47,213 人

人と他の動物の骨格を比較しながら、私たちの身体を支えるホネを紹介する企画展。全長約12mのニタリクジラの全身骨格、ナウマンゾウの全身復元骨格など、様々な動物の骨格標本などを展示した。来館者は普段は意識することの少ないホネに関心を寄せていた。総展示数は67点(うち、骨標本45点、剥製標本7点、化石標本5点、模型9点)。標本種類数は42種類。



◆主な展示

□本館1階展示室

展示室を教室風にしつらえ「ホネホネ教室」と題して、骨があることによる利点などを展示した。 児童机の引き出し中のには、ホネのおもしろエピソードが、ハンズオンで学べるように、また保健室風エリアでは、骨と健康等について考えることができるようにした。



口企画展示室

巨大クジラの全身骨格標本を中心に据え、周辺を研究室風にして「ホネホネ研究所」と名付け、 身体の各部位毎に解説した展示を行った。また、 骨格標本の作り方や、そのための道具なども併せ て展示した。



ロホール

アイキャッチを兼ねて東京で発掘されたナウマンゾウの復元骨格を展示した。また風除室のガラス面を利用して、今回の企画展用キャラクター「ホネホネ博士」と一緒にホネ写真が撮れるコーナーも設置した。

□回廊

本館 2 階ギャラリー前に、日本にはじめてやってきたジャイアントパンダ「カンカン」の剥製を配し、企画展示室への誘導展示とした。本館回廊壁面には、「ホネ」が使われている慣用句紹介コーナー、来館者がテンピーのホネを想像して描いたイラストを展示するコーナー、ホネと健康の壁新聞など、さまざまな視点からホネを紹介する展示を行った。

口その他

今回初の試みとして館内職員が揃いのスタッフ Tシャツを着用し、企画展の盛り上げに向けた一体感 を醸成する試みも行った。



※展示協力:国立科学博物館、鳥取大学生命機能研究支援センター、多摩動物公園、島根県立しまね海洋館、八王子市教育委員会、広島市安佐動物公園、神戸市立王子動物園、大田市立北三瓶小学校、野尻湖ナウマンゾウ博物館、公益財団法人知床財団石名坂豪、奥出雲多根自然博物館、野尻湖発掘調査団、医療法人社団賢宏会上垣医院、なにわホネホネ団、大方ホエールウォッチング、豊かな骨推進委員会、ベネッセコーポレーション、大畑純二、近藤浩平、下野晴美

◆関連イベント

ロナイトミュージアム「研究員 VS怪盗ホネホーネ」

期 日:8月1日(土)19:00~20:30

参加者:親子8組(23人)

内 容:夜の博物館を会場に、見習い研究員と

して集まった参加者が展示室から盗まれた標本を取り戻すために協力し、謎を解いていくイベント。参加者は館内各所を巡り、クイズやパズルを解いて標本を探し当てた。



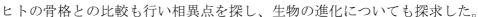
ロキリンの首はなぜ長い?

期 日:9月13日(日)10:30~12:00、13:30~15:00

参加者:57人

内 容:広島市安佐動物公園の獣医師を招致し、

キリンの全身骨格を参加者が復元する 内容で開催した。等身大のキリン写真上 にバラバラの骨を復元していく内容で、 他の脊椎動物の骨格とも比較しながら 全身分の骨をならべていった。その後、





冬期企画展「第36回SSP展 自然を楽しむ科学の眼」

期 間:12月20日(日)~1月24日(日)

入場者: 3,557人

日本自然科学写真協会 (SSP) 会員による巡回展・第36回 SSP 展を招致し、出展作から選抜した98点を展示した。三瓶自然館での展示は今回で6回目。昆虫、動物、鳥類、植物などの生物、また山岳や天体など多岐にわたる分野からの科学写真が一堂に会し、年末年始を中心とした来館者の目を楽しませた。



③その他の展示

ロサヒメルギャラリー

本館2階の回廊部分および本館1階ホールを活用し、自然に関する写真、パネル等の展示を行った。

6月1日~6月30日 大田市の自然景観写真展示 (三瓶自然館) 11月2日~12月17日 大田市の自然景観写真展示 (三瓶自然館) 2月1日~2月29日 北の原ファンタジー写真展示 (三瓶自然館)

ロアクティブレンジャー写真展

期 間:5月23日(土)~6月21日(日)

場 所:本館1階ホール

内 容:環境省中国四国地方環境事務所が実施する写真展。中国地方、四国地方の国立公園において、環境省のアクティブレンジャーが撮影した自然景観や自然保護活動

風景の写真約30点を展示した。

口空飛ぶ写真機~マルチコプターを駆使した最先端の自然風景

期 間:10月10日(土)~10月25日(日)

入場者:6,781人

場 所:企画展示室及び回廊

内 容: 手軽に空撮写真を撮影できるツールとして近年急速な進歩を遂げているマルチコプターをいち早く取り入れ、各地の様々な迫力ある自然風景を撮影している写真家・林明輝氏の写真展を招致し、写真パネル計59点の展示を行った。



口木のおもちゃ展

期 間:11月1日(日)~11月23日(月)

入場者: 5,802 人

場 所:本館1階ロビー及び企画展示室

内 容:木のおもちゃをとおして森林や自然に興味をもってもらうことを目的とし、様々な木のおもちゃを設置した。来館者には自由に遊んでもらい、木のぬくもりを感じてもらった。



口申年ミニ展示

期 間:12月25日(金)~1月31日(日)

場 所:本館1階常設展示室

内 容: 干支にちなんだサルに関する展示を剥製や骨格標本などを用いて開催した。サル の生態や習性、また名前にサルがつく動植物の展示も行い、楽しく学べる内容と した。

④ビジュアルドームプラネタリウムの投影

◆プラネタリウムー般投影

スタッフがその日の星空や天文の話題を紹介する生解説投影(星座案内)と、星景写真の撮り方やブラックホールなどのテーマを多彩な演出で投影するプログラム番組(テーマ番組)の投影を行った。

口星座案内

期 間:通年

観覧者:10,700人

内 容:季節の星座を紹介するとともに、折々の天文の話題も織り交ぜ、親しみやすい生解説の投影を1日2回、1回約20分で投影した。土曜日には天文スタッフが月ごとにテーマを決め、深く掘り下げて解説する45分間のプラネタリウム星空案内を投影した。

ロテーマ番組

・島根の星景色~撮ろう!地上と夜空のアート~

期 間:4月1日(水)~2月20日(土)

観覧者:5,243人

内 容:星空と景色とを一緒に写し込んだ星景写真は、デジタルカメラの性能向上で 近年人気を集めている。星景写真に初めてチャレンジする二人を主人公に、 島根県内の名所、景観をふんだんに織り込んだオリジナルプラネタリウム番組。

• 秘密結社 鷹の爪 THE PLANETARIUM~ブラブラ!ブラックホールのナゾ~

期 間:10月12日(月)~2月21日(日)(週1回投影)

観覧者:360人

内 容:人気アニメ「秘密結社 鷹の爪」のキャラクターを使った番組。島根県出身の 登場人物「吉田くん」を用いて島根を取り上げつつ、多くの人が興味を持つ ブラックホールを科学的な主題として、最新の宇宙論をおもしろく、わかりや すく伝えた。

口その他

• きっずプラネタリウム

期 間:4~2月の第3日曜日

観覧者:1,173人

内 容:毎月第3日曜日に実施している「サヒメルきっずサンデー」関連イベントとして、幼児向けのプラネタリウムを投影した。親子で星空に親しむきっかけ作りを目的として、月や星のこと、星座の物語などを中心に、一緒になって楽しめる内容とした。

・オリジナルライブラリ作品を要望に応じて投影

期 間:通年 観覧者:566人

番組製作

470 億光年の、その先へ ー宇宙のはてをさがす旅ー

(新番組、本年度はビジュアルドーム更新工事のため投影なし)

内 容:現代の天文学では宇宙の年齢が138億年、その大きさは半径470億光年と推定されている。この宇宙に果てはあるのか、あるとしたらその先はどうなっているのか。誰もが抱く疑問を、小学生以上を対象とし、絵本の雰囲気で解説した番組。

◆プラネタリウム学習投影

実施数:19団体 717人

「4年生向け投影」、「6年生向け投影」、「星座早見の使い方」および「幼児向け投影」を学校団体の希望に合わせて行った。

大型ドーム映像の上映

◆特別番組

・「皇帝ペンギン~ペンギン家族の 12 ヶ月」

期 間:7月17日(金)~9月27日(日)

観覧者:11,187人

内 容:夏の企画展「さんベホネホネ研究所」と連動し、特別番組を上映した。南極の 厳しい環境で、もっとも過酷といわれる子育てをする皇帝ペンギンを追った 20分の作品。純白の氷原と愛らしい皇帝ペンギンの子供が人気を博した。

• 「紙兎ロペ~ネタバレすっと おれらロケット飛ばすってマジっすか!?」

期 間:9月19日(土)~9月23日(水)

観覧者: 2,954 人

内容: 秋の大型連休(シルバーウィーク) 期間の特別番組として、テレビ等で人気の キャラクターによる作品を上映した。JAXA とコラボレーションし、ロケットの 原理がわかりやすく解説されており、大人から子供まで日本の宇宙開発への 関心を高めるきっかけとなる作品だった。

◆一般番組

・「さんべ自然紀行」「煌めきのなかで」「三瓶冬紀行」「島根 人と自然の原風景」

期 間:さんべ自然紀行=4~9月、煌めきのなかで=4~7月

三瓶冬紀行、島根 人と自然の原風景=10~2月

観覧者: 4,722 人

三瓶自然館のオリジナル作品。四季折々にさまざまな顔を見せる三瓶山と、そこに暮らす生き物を追った「さんべ自然紀行」「三瓶冬紀行」、島根県内各地の風物や人の生活に焦点をあてた「煌めきのなかで」「島根 人と自然の原風景」を季節に応じて入れ替えて上映した。

◆ビジュアルドーム更新工事

大型ドーム映像を上映する 70mm フィルム映写機にかわり、最新式のレーザー光源 デジタルプロジェクターシステムを導入するため、2月 22 日から3月 31 日までの期間、 ビジュアルドームを休場し、すべての番組の投影及び上映を中止した。

⑤各種イベント

口皆既月食観察会

日 時:4月4日(土) 19:00~21:00

参加者:14人

内 容:日本全国で見られる皆既月食。当日は雨で実際の観察ができなかったため、 晴天だった北日本(名寄、陸別、仙台)からのライブ中継を参加者とともに視 聴しながら解説を行った。

口系外惑星命名への道

日 時:4月26日(日) 11:00~12:00

参加者:6人

内 容:太陽系以外で見つかっている惑星を持つ系外惑星がどんなものか、その惑星系 に名前を付けるキャンペーンと併せて、大西浩次氏(国立長野高専教授)が 解説した。

ロメガスター特別投影

詳細はP8に記載する

ロ大平貴之トークショー&特別投影

詳細はP8に記載する

口春の男三瓶山に登ろう

日 時:5月10日(日) 8:30~14:30

参加者:40人

内容:春の草花や鳥のさえずりなどを観察しながら、男三瓶山への観察登山を行った。参加者は、インタープリターによる自然解説や新緑の中での登山を楽しむとともに、自然への興味を深めた様

子であった。



口初夏のノルディックウォーク

日 時:5月31日(日) 9:30~15:30

参加者:29人

内容: 2本のポールを使うノルディックウォークで、北の原から東の原まで続く新緑のヘルシートレイリングコース往復9kmを歩いた。途中、研究員による観察会

を行った。

口天文教室「星座の写真を撮ろう」

日 時:6月7日(日) 19:30~21:30

参加者:14人

内容:星座写真撮影の講習会。撮影方法の説明のあと、撮影の実習を行った。その後、 簡単な画像処理の説明と、参加者撮影の各画像の鑑賞を行った。初心者向けの

設定であったが、中・上級者の参加者が多かった。

□夏の夜の昆虫観察

期 日:7月25日(土)

参加者:43人

内 容: 夜の三瓶山で見られる昆虫の観察。夜の森を歩いて虫を探したり、ライトトラップや エサで虫を集めたり、アブラゼミの羽化やクワガタムシの仲間などを観察したりした。

口200万年前の昆虫採集

期 日:9月27日(日)

参加者:37人

内容: 江津市での化石発掘体験。200万年前の地層、

都野津層について解説した後、現地で発掘

作業を体験した。実施には江津市教育委員

会の協力を得た。



ロススキの迷路

期 間:10月4日(日)~11月3日(火)

内容: さんべ祭の時期に合わせて、北の原のススキ野原に難易度別に初級、中級、

上級の3コースを設置。平日は、幼稚園や保育園が遠足で利用してもらい、

休日は家族連れで楽しんでもらうことができた。

ロビジュアルドームフェスティバル

日 時:10月12日(月) 10:00~16:30

参加者:385人

内容:「爆笑!星のお兄さんプラネタリウムショー」を中心に、連休にあわせてビジ

ュアルドームでの特別上映を行い、集客をはかるとともに来館者の宇宙や天文

への興味や関心を高める契機とした。

口爆笑!星のお兄さんのプラネタリウムショー

日 時:10月12日(月) 14:00~15:30

参加者:184人

内容:「星のお兄さん」こと総合リゾートホテ

ル ラフォーレ琵琶湖の田端英樹氏によるプラネタリウム生解説。投影に対する 満足度は非常に高く、楽しさだけでなく、

星や宇宙への関心も高まった。



口さんべ祭

期 間:10月17日(土)~18日(日)

参加者:11,695人(2日間)

内容:本館ロビーでの科学ワークショップ等の 小ブース出展、インタープリターによる 工作体験を2日間実施したほか、18日に は北の原草原において、地元ミュージシャンらの出演による音楽イベント「さん べ太陽大感謝祭」を実施した。本館前広 場には、風の子楽習館の協力により、飲



口天文教室「月を撮る 月で撮る」

日 時:10月25日(日) 19:00~21:00

食屋台を出店した。

参加者:13人

内 容:初・中級者向けの天体写真撮影講習会。三瓶自然館の望遠鏡を使用した月の撮影と、月の明かりを利用した星景写真(星空と地上の景色が同時に写った写真) の撮影を実践した。

口秋のノルディックウォーク

日 時:11月3日(火) 9:30~15:30

参加者:44人

内 容: 2本のポールを使うノルディックウォークで、北の原から東の原まで続くヘルシートレイリングコース往復9kmを紅葉を楽しみながら歩いた。途中、研究員による観察会を行った。

口全国一斉 熟睡プラ寝たリウム

日 時:11月23日(月) 13:30~14:15

参加者:50人

内容: 勤労感謝の日に、全国24館で一斉に開催した寝てしまってもかまわないプラネタリウム。心地よい音楽とプラネタリウムの満天の星で、熟睡してしまうほどリラックスできる時間をお客様に提供した。今回は星空解説の時間を昨年の倍にし、より眠り易い環境をつくった。また、昨年同様いびき席を用意したり、ドーム入口では、イルミネーションを置き、香りでもリラックスしてもらおうとアロマディフューザーも設置するなどの工夫を行った。

口熟睡プラ寝たリウム

日 時:11/29、12/6~12/20の毎週日曜日 13:30~14:15 計4回

参加者:75人

内容:全国一斉熟睡プラ寝たリウムと同内容のものを、当館独自で実施した。

口字幕付きプラネタリウム

期 間:12月5日(土)~6日(日)

参加者:9人

内 容:障害者週間にあわせ、主に聴覚障がい者を対象とした字幕付きのプラネタリウムを投影した。当日見られる星座や天体の情報、見つけ方などの解説を文章化し、スクリーンに投影して星空案内を行った。

口お正月イベント

期 間:1月2日(土)~3日(日)

参加者:1,380人

内 容:お正月に臨時開館して開催する恒例のイベント。郷土色豊かな島根県各地方の 雑煮のふるまい、書き初め、抽選会、干支のサルに関する特別展示などを実施 した。両日とも年男、年女は無料入館とした。

口歩くスキーでアニマルトラッキング

日 時:2月7日(日) 10:00~12:00

参加者:24人

内 容:歩くスキーを使って北の原を散策し、雪上に残された動物たちの痕跡や冬芽の 観察を行った。テン、ノウサギ、鳥類の足跡が見られた。参加者らは少人数の班 に分かれて観察し、各班の指導はインタープリターが行った。

口北の原ファンタジー「池のほとりで大じけん!!…イシガメ「イシ」の大ピンチ…」

日 時:2月21日(日) 11:00~、14:00~(各60分)

参加者:167人(11:00)、145人(14:00) 合計312人

内容:毎年実施している、アテンダントによる手作りの劇と、ゲームで楽しむプラネタリウムイベント。今回のテーマは「外来種」。ペットを飼うためのルールを学びながら、自然界の仕組みに興味を持ってもらうことを目的とした。また毎月第3日曜日に開催されるきっずサンデーにあわせ、テンピータイムやデジタル紙芝居も実施した。ダンボール迷路、バケツたいこのイベントなども開催し、好評だった。

ロドローンを使って地形をしらべよう

日 時:3月5日(土) 10:00~12:00

参加者:24人

内容:ドローン(マルチコプター)の特徴と性能を学んだ後、野外に出て実際の飛行や撮影の様子を見学。その後、ドローンの活用例の1つとして、ドローンで上空から撮影した映像や地形図を見比べたり、地形の読み方や観察体験を通じて、地形の観察方法を学んだ。

本イベントは、サヒメル科学探険隊のオープン講座として実施した。

ロ天文ミニガイドスペシャル「太陽を観察しよう!」

日 時:3月5日(土) 13:30~14:30

参加者:26人

内容:国立天文台太陽観測所の矢治健太郎氏を講師に迎え、望遠鏡での太陽黒点やプロミネンスの観察、参加者が簡易太陽望遠鏡を使う体験を行った。後半では最新の太陽の観測記録の紹介、3月9日に日本で見られる部分日食についてミニ講座を実施した。本イベントは、サヒメル科学探険隊のオープン講座として実施した。

口親子で作ろう工作教室

日 時:13:00~15:00

5/3 バードバス作り (20)

5/4 竹の工作(32)

7/26 藍で染めてみよう (28)

8/2 竹の工作(15)

9/13 「海からのお客さま」(8)

12/6 クリスマスリース作り (22)

() 内は参加人数。

内 容:自然や環境をテーマにした親子向けの工作で、企画と実施をインタープリター が担当した。

ロサヒメル科学探険隊

日 時:5/17、6/14、9/20、10/11、11/8年5回10:00~16:00

内容:理科好きな小学校4~6年生を対象に、自然科学に関する学習や観察を通じて、自然科学への関心を引き出す活動。年度始めに探険隊に登録し、年間を通じて5回の活動を行った。子どもたちの積極的な姿が随所



に見え、深まりのある活動となった。JST事業(参加者 18 名)。

第1回 バックヤード見学/昼の天体観察

第2回 骨格標本をつくってみよう

第3回 骨のふしぎとサヒメル夏の企画展見学

第4回 地学オリエンテーリング

第5回 よく飛ぶ紙ヒコーキの仕組みを調べよう/発表会

オープン講座 ドローンを使って地形をしらべよう

天文ミニガイドスペシャル「太陽を観察しよう!」

ロサヒメルきっずサンデー

実施日:毎月第3日曜日

内容:「しまね家庭の日」に連動した幼児に三瓶自然館を楽しんでもらうための一日

「デジタルかみしばい」、「きっずプラネタリウム」、「テンピー・タイム」 のほか、定期イベントの「天文ミニガイド」も幼児を意識して実施。1月から

は館内スタンプラリーも設置した。

⑥各種行事

口青少年のための科学の祭典 2015 島根大会への参加

期 間:8月1日(土)~8月2日(日)

会 場:出雲科学館(出雲市今市町 1900-2)

参加者:419人

内容:サヒメル理科キャラバンカー「さわって学ぼう、カラダのふしぎ」プログラム

で用いている教材を題材に、からだの仕組みや骨について学ぶブースを出展し

た。また、夏期企画展「さんベホネホネ研究所」のPR活動を行った。

⑦新聞への寄稿

読売新聞「サヒメル研究日誌」(計13回)・島根日日新聞「学芸員日記」(計26回)・ 山陰中央新報「続・きらめく星たち~さんいんの夜に」(計26回)への原稿執筆を通して、 三瓶や島根の自然の紹介、自然保護についての啓発、情報発信を行った。掲載された記事 の抜粋を「VI. 各種資料 5. 資料」に示す。

8自然学講座

ロ大平貴之トークショー&特別投影

詳細はP8に記載

口教員のための博物館の日

日 時:8月19日(水) 9:30~16:30

参加者:24人

内 容:国立科学博物館と共催で開催。学校の博物館利用を促進することが目的で、教 員に博物館の様々な展示やプログラムを知ってもらうための事業。今年度は、 島根大学より講師を招いてのワークショップ、教員からの授業事例の紹介、島 根県立しまね海洋館での学校向けプログラム実演などを行った。

> ワークショップ 講師 1-A アクアスでの学校向けプログラム紹介 梶谷恵美 氏 (しまね海洋館 学習交流係) 野村啓介 氏 1-B 身近にある天然の放射能で放射線学習 (大田市立第三中学校 教諭) 2-A ペットボトルロケットを作って飛ばそう 林 知洋 氏 (江津市立高角小学校 教諭) 2-B こん虫を調べよう 3-A プラネタリムを動かしてみよう 当館職員 3-B 企画展&バックヤードツアー グループワーク 高須佳奈 氏 (島根大学 地域課題学習支援センター) 視点をかえて、みてみよう

> ※本事業は第10回科学教育の普及・啓発助成事業の支援を受けて実施した。

ロキリンの首はなぜ長い?

詳細はP11に記載

口林明輝ギャラリートーク「ドローンで見た日本の絶景~空飛ぶ写真機」

期 日:10月18日(日) 13:00~14:30

参加者:59人

内 容:マルチコプター空撮撮影においての先駆者といえる写真家・林明輝氏を招き、 開催中の「空飛ぶ写真機〜マルチコプターを駆使した最先端の自然風景」写真 展会場において撮影秘話等を解説するギャラリートークを実施した。天候に恵 まれたため、当館所有のマルチコプターを使用し、北の原において操作実演も 合わせて行った。

9天体観察会

20cm クーデ式屈折望遠鏡 4 基と 60 c m大型反射望遠鏡を活用し、定期・予約観察会のほか、天文現象などにあわせた様々なテーマの観察会を実施した。

合計参加者数:9,289人

a. 定期天体観察会

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
参加人数	151	305	98	171	650	206	360	102	43	138	77	60	2, 361

開催日:每週土曜日(1回45分)

開始時刻: (4~8月) 20:00~、21:00~、(9、10、11、3月) 19:00~、20:00~、

(12~2月) 19:00~

b. 予約天体観察会

当館の天体観察施設で行う学校団体・一般団体を対象にした天体観察会で、土曜日と休館を除く日に予約により実施している。曇天・雨天時には希望に応じ、プラネタリウムの投影を行う。予約団体の多くは、国立三瓶青少年交流の家において宿泊研修を行う学校団体であった。実施状況は「VI 各種資料 5. 資料 」に示す。

実施数:92 団体 5,616 人

c. 特別天体観察会

ロゴールデンウィーク天体観察会

日 時:5月3日(日)~5日(火) 20:00~、21:00~

参加者:291人

内容:満月前後の月ほか、木星や土星、春の星座の星などの観察を行った。

ロペルセウス座流星群観察会

日 時:8月12日(水) 20:00~、21:00~

参加者:50人

内容: 悪天候のため、プラネタリウムにてペルセウス座流星群の解説を行った。

□夏休み天体観察会

日 時:8月13日(木)~14日(金) 20:00~、21:00~

参加者:276人

内容:夏の星座のほか、土星、ヘルクレス座の球状星団などの観察を行った。

ロシルバーウィーク天体観察会

日 時:9月20日(日)~22日(火) 19:00~、20:00~(21日のみ追加で21時の回)

参加者:695人

内容:連日の晴天で、多く参加があった。特に、21日は、19時と20時に加え、21時の回も実施し、すべての回が満員となった。土星や月、夏の星座などの観察を行った。

⑩ 自然観察会

a. 定期自然観察会「北の原お散歩ツアー」

日 時:毎週土曜日(4~11月) 14:30~15:00

内 容: 三瓶北の原草原で見頃をむかえた季節の花や景色を楽しみながら行う自然観察 会。来館者が気軽に参加できるよう 30 分で実施。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
人数	15 (4)	36 (4)	11(2)	15(3)	47 (5)	30(4)	38 (4)	11(2)	203 (28)

^() 内は回数 ※悪天候時は中止

b. 予約自然観察会

事前の予約に応じて行う自然観察会、学校団体等を中心に好評を得ている。実施状況は「VI 各種資料 5. 資料」に示す。

実施数:57 団体 2,159 人

①教育·学習事業

□講師派遣

各種団体や学校、生涯学習施設などの要請に対して、各専門分野の職員が赴き、自然や 環境についての講演や観察会を行うなど、環境教育や環境学習に協力した。

実施数:58 団体 1,321 人

実施状況は「VI 各種資料 5. 資料」に示す。

ロスーパーサイエンスハイスクールへの協力

・島根県立益田高等学校スーパーサイエンスハイスクール地域巡検

日 時:7月9日(木) 生徒数:1年生 18人

内 容:天文分野・・・天体望遠鏡のしくみと太陽黒点の観察

ロサイエンスセミナー

・島根県立大田高等学校2年生課題研究体験プログラム ステップ2

日 時:6月17日(水)·18日(木) 生徒数:2年生36人

内 容:研修①・・・【天文】太陽黒点の移動速度の測定

研修②・・・【鳥類】サヒメル周辺のキビタキ生息数の推定

水浴び場の鳥類における種類別序列の推察

研修③・・・【昆虫】クワガタムシの体サイズと形態の比較

・島根県立大田高等学校1年生 三瓶サイエンスセミナー

日 時:9月16日(水)·17日(木)

生徒数:1年生25人

内容:研修①・・・天体望遠鏡のしくみと太陽黒点の観察

研修②・・・身近にもある放射線の調査と観察

研修③・・・身近な野鳥の観察/調査の手法

研修④・・・ダンゴムシの行動を探る

口教員のための博物館の日

詳細はP21に記載する

⑩博物館ボランティア活動

口博物館ボランティア「三瓶自然館インタープリター」について

三瓶自然館インタープリターは、三瓶を訪れる人たちが、生きた自然に触れ、自然の不 思議さや素晴らしさを感じ、自然を愛する心や守る心を育むことを手助けすること(イン タープリテーション)を行うために設置されたボランティアスタッフである。平成4年の 研修の後、平成5年から活動を行っている。

館の設置目的を理解し、自然環境の保全に関心を持つ希望者のうち、研修を修了した者に委嘱登録している。また、希望者のうち自然観察の経験等の少ない者は、研修期間としている。

口登録者数

登録種別	人数
委嘱登録者	65人
登録希望者	8人
合計	73人

男女構成				
男性	52人			
女 性	21人			
合計	73人			

口活動実績

館が実施する各種事業に協力してもらい、主に参加者や来館者に対する解説や案内を行っている。主な活動内容は次のとおり。

- ・館主催イベントにおける参加者対応や企画・実施・実施補助
- ・外部から依頼を受けた自然観察会や定期観察会での自然解説
- ・毎週土曜日の定期天体観察会での補助や案内
- ・新館4Fのハンズオンコーナーでの工作や来館者対応
- ・北の原の植物・鳥類調査(環境省のモニタリングサイト 1000 など) 登録者のうち 40 人が何らかの事業に参加しており、延べ 446 人の協力を得た。

平成 27 年度の主な協力事業

月日	事 業 名	活動人数
5/12	春の男三瓶山に登ろう	12人
6/12-13	ビギナーズ・キャンプ・セミナー	6人
7/25	夏の夜の昆虫観察	9人
10/17-18	さんべ祭	12人
2/7	歩くスキーでアニマルトラッキング	14人
	北の原お散歩ツアー	6人
	工作コーナー	74人
	親子で作る工作教室	11人
複数回実施	自然観察会	24人
事業等	天体観察会	85人
	調査	81人
	研修	42人
	会議・打ち合わせ等	73人

複数日に渡るイベントと複数回実施事業等の活動人数は延べ

□研修

三瓶火山についての知識を深める研修のほか、インタープリターによる自主研修会を行った。また、現地研修として隠岐の島を視察し、現地の自然について学ぶとともに、隠岐世界ジオパーク推進協議会関係者と懇談を行った。

(2)三瓶小豆原埋没林公園

三瓶小豆原埋没林の展示公開については、展示解説により来場者の関心の高まりを図ることを目指して運営にあたった。また、集客を図るため、冬期を中心に近隣の観光施設への PR を重点的に行った。

施設管理については、島根県が実施した保存検討関連調査に協力し、これまで継続的に 実施している地下水の水位測定に加えて、展示室の温湿度調査、埋没樹の含水率調査を実 施した。

① 常設展示

大小2棟の地下展示室において、三瓶小豆原埋没林を発掘状態で現地展示している。大展示棟(縄文の森発掘保存展示棟)では、スギ3本、広葉樹4本の立木のほか、倒木を展示している。観覧者は地表下約12 mの見学デッキから見学できる。小展示棟は、三瓶自然館展示標本の根株があり、地下約13.5mの床面で間近で見学できる。

② 展示解説

実施数:169 団体 6,870 人

内 容:予約時に解説希望の有無を確認し、その大部分に解説を実施した。また、予約に限らず、スタッフの対応が可能な限り解説を行うことで埋没林の魅力を伝えることに務めた。その他、団体以外への解説も随時実施している。

③ イベント

口縄文時代の大地に立とう

期 日:4月12日(日)、5月10日(日)、6月14日(日)、7月12日(日)、 8月9日(日)、9月14日(日)、11月8日(日) *計7回

参加者:82人

内 容:展示棟床面と天井部分のバックヤードを含む展示解説ツアー。

口蛍カフェ&星降る森のコンサート

期 日:6月20日(土)

参加者:35名

内容:第1部でコンサート、第2部で蛍カフェを 行った。コンサートは、岡山市で活動する 音楽ユニット「早史野」の3名を迎え、展 示室内でオカリナと筝、詩の朗読による演 奏を行った。蛍カフェは、アンテナカフェ・ ハレの日(大田市)との共催により、芝生 園地での食事とホタルの観賞を行った。



口縄文時代の大地に立とうスペシャル

期 日:10月11日(日)

参加者:10名

内容:埋没林と「本宮神社の大杉」(三瓶町志学)などを見学する巡検型イベントで、 各見学ポイントをスタッフが案内した。移動は参加者各自の自家用車で行った。

参加者の関心が高く、好評であった。

④ 啓発事業

口埋没林ガイダンス

期 間:9月18日(金)~23日(水)

参加者:約350人

内容: 埋没林保存検討業務の一環で、島根県から受託を受けて実施した。下記期間、

毎日定時(10:00、11:00、13:00、14:00、15:00)に、芝生園地に設置したテン

トで事前ガイダンスを行った後、展示室床面まで案内した。

⑤埋没木の保存検討に関する事項、保存処理、モニタリング、調査等

週1回の地下水観測と月1回の水質調査を継続して実施したほか、7~8月の期間、展示室の温湿度調査を実施した。7~9月には、県が主体でボーリング調査と地下水動態調査が実施された。

9月10日、11日に、保存検討委員会の高妻委員長(奈良文化財研究所)を県が招へいし、埋没林の現地調査が行われ、その際に採取した材試料の含水比測定を当方で実施した。 10月27日に島根県自然環境課の主催で第6回埋没林保存検討委員会(於:県庁職員会館)が開催された。この委員会において、展示室への湧水対策として、今後、深井戸の増設による方法で検討を進めることになり、平成28年度に追加調査が行われるほか、並行して保存処理方法の試験を行うことになった。

(3)施設PR事業

①広報営業活動

企画展を中心に、ゴールデンウイーク等での企画にあわせた広告宣伝を実施した。本年度は、一定期間にわたるイベントとして、プラネタリウム「メガスター」投影(4-5月連休)、映画「紙兎ロペ」上映(9月連休)、「木のおもちゃ展」(11月)があり、効果的な広告機会であった。

最も重点的に広告を展開した夏期企画展では、ポスターとチラシの各所への配布、県内全児童への無料招待券の配布、新聞等への広告掲載、テレビ CM を実施した。

外部で実施されるイベント会場での PR では、「アクアス春祭り」、「石見肉祭り」等にブースを出展した。1月に広島で開催される「島根ふるさとフェア」は、効果を検討し、本年度はブース出展を見合わせ、大田市観光協会に帯同しての PR を行った。また、地域連携による「三瓶山広域ツーリズム協議会」として実施する、広島等での PR 事業に参加し、パンフレットの配布などを行った。

口営業活動

三瓶温泉等、近隣の観光施設へのパンフレット持参を定期的に行った。また、冬期には、 県内および広島県東部エリアの観光関連施設への訪問 PR を実施した。本年度は、道の駅、 温泉・宿泊施設など 143 カ所を訪問し、先方施設職員への埋没林の紹介、パンフレット設 置を行った。

②情報発信

ロWEBサイト・SNS

前年度末に施設ホームページのリニューアルを行い、イベント等の情報を更新しながら 運営した。即時性を要する情報は、ツイッターとの連動で随時更新した。

ロケーブルテレビ (ぎんざんテレビ)

地元ケーブルテレビ局とタイアップして、三瓶自然館の情報番組「さんべ発!サヒメル navi」を毎月制作し、三瓶山や島根の自然や当館のイベント情報の提供に取り組んでいる。放送開始から7年目となり、島根県内の視聴世帯数は16万世帯を超え、三瓶や自然館のPRに大きく貢献している。また、大田市内においては、高齢者の聴取率が高い音声告知を活用したイベント告知も実施している。

平成27年度「さんべ発!サヒメル navi」放送内容

放送日	放送内容	放送日	放送内容
4/10	春の企画展と関連イベント	10/9	天文教室「月を撮る 月で撮る」
4 /24		10/23	
	サヒメルきっずサンデー		マルチコプター写真展
	キャンプ場フルオープン		木のおもちゃ展
5/8	春の植物&北の原お散歩ツアー紹介	11/13	熟睡プラネタリウム
5/22		11/27	
	ノルディックウオークの紹介		冬期企画展 SSP展
	夏の企画展「さんべホネホネ研究所」		山で見られる鳥たち
	予告編		
6 /12	梅雨時期に見られる生きものたち	12/11	カメムシと雪
6 / 26		12/25	
	金星を見てみよう		北の原ファンタジー2016
	夏の企画展「さんべホネホネ研究所」		お正月イベント
	紹介 Part3		
7 /10	水場に来る幼鳥たち	1/8	北の原ファンタジー2016 Part2
7 /24		1/22	
	大型ドーム映像特別番組紹介		雪の結晶の観察
	夏の企画展「さんべホネホネ研究所」		歩くスキーでアニマルトラッキング
	紹介 Part3		
8/14	夏の夜空と天体観察会	2/12	春の企画展紹介植物標本
8 / 28		2/26	
	大型ドーム映像特別番組紹介		冬の天体観察会
	夏の企画展「さんベホネホネ研究所」		リャンコ de なんぽ
	紹介 Part 4		

ロ ミュージアムニュース発行

三瓶自然館のイベントや島根の自然に関する情報、環境事業部門の活動情報を取り上げ、 隔月で年6回、3,000部ずつ発行した。友の会会員、学校、図書館、県内市町村等に配布した。

(4) 施設の維持管理

平成 27 年度から平成 34 年度までの指定管理施設・設備の維持管理は、「島根県立三瓶 自然館及びその附属施設の管理運営に関する仕様書・協定書(以下「仕様等」)」を遵守し、 現指定管理申請時(平成 26 年 10 月)に策定した平成 27 年度から平成 34 年度までの管 理運営業務の基本方針に基づき、各年度当初に事業計画を定め、業務にあたることとし ている。

平成27年度では、年間を通じ各保守業務、修繕等に適切に対応したほか、県が実施する県立施設長寿命化推進事業に協力し、同事業による軽微な設備類の更新業務を受託、執行した。昨年までに県によって更新された設備では、管理・運用コストの削減など大きな効果を生んでおり、今後もスムーズな事業推進が図られるよう、県への情報提供、要望・提案等をしていくこととしている。

また、各設備類の基本情報や修繕履歴等をデータベース化し、今後の管理業務に活用するため、独自に設備台帳システムを導入した。現在、県の設備台帳システムは指定管理者が利用できないため独自に導入したものだが、取り扱う情報量が膨大なことから中長期をかけて整備することとしており、本年ではシステム本体の構築、管理するデータの収集等を進めている。

【指定管理期間での管理業務基本方針】

- ・管理者の都合ではなく利用者のための管理
- ・県民の財産をお預かりしている意識
- ・自然環境や地球環境に優しい管理

① 各管理にあたっての特記事項

a 設備・備品類の管理

管理業務基本方針に基づき、専門業者による定期的なメンテナンスのみならず、職員による日常的な点検を実施し、トラブルが発生する前での早期発見、早期対応に努めている。 施設に付随する設備・備品類についても、適正な維持・運用を図り、支障が生じた場合も 県や専門業者と密接に連携を取りながら、迅速な対応を行った。

また、島根県の県有施設長寿命化推進事業に基づく修繕等業務の一部を受託し、開館以来未更新の機器、老朽化した設備部品等について、更新・修繕を適切に実施した。

b 野外環境の管理

管理域(三瓶山北の原~東の原)において全3回の刈り払い作業を実施したほか、三瓶山登山道(姫逃コース、名号コース)の定期的な点検、風倒木等の処理作業を行い、来館者・来園者、登山者の快適な利用に資するよう環境管理を行った。

なお、これらの作業にあたっては、自然公園法の指定植物、レッドデータブックに掲載 される稀少植物の取り扱いに細心の注意を払っている。

また、地域貢献の一環として、毎年「クリーン三瓶」に参加し、地域の美化に努めた。 冬季の除雪は、ホイルローダー、除雪機、そして人力によるスコップを駆使し、毎日の 開館時までに利用者が安全に自然館に入館できるよう除雪した。

②コスト縮減状況

光熱水費については、昨年実施した県有施設長寿命化推進事業による空調機器更新により、大幅に削減することができた。

設備保守は、第二期指定管理期間からの委託業務の統合等の努力により、必要最小限のコストにとどめている。県有施設長寿命化推進事業も昨年に比べ小規模だったことから、前年を下回った。軽微な修繕についても、県有施設長寿命化推進事業による設備更新の成果により、削減することができている。

その他事業経費については大きく削減した。これは、昨今のガソリン等の価格下落と、 職員の節約によるところが大きい。

	 か与かサイレンロー 	/ 宀 炉をウサッド	N豆原埋没林公园	ヨヘヘミ	兴 一	\Box
● 合地ニス	ト ※店 /店V :ファ / 分	l 口 ダ人 TE パケ () /		園(/)/二>三十	$\pm 107 \cdot \pm 100$	·ш)

項目	平成26年度 決算額(A)	平成27年度 決算(B)	縮減率 (B/A-1)*100
熱水費	22, 322	19, 542	-12.5%
設備保守費(外注委託)	116, 691	68, 587	-41.3%
経常事務費	12, 302	11, 564	-6.0%
合 計	151, 315	99, 693	-34.1%

③保安·危機管理

当施設における危機管理は、火災や設備故障などのハード的な障害から、犯罪や人身事故などの人的なもの、さらにスズメバチなどの危険生物や豪雨、倒木、積雪等による自然的なものなど、多様な状況が想定されるが、当財団では「来館者・来園者の安全確保」を第一優先事項とし、危機事態の防止・回避、発生した場合の対応にあたっている。

平成 27 年度では、重大な事故等は発生しなかったが、その他保安・予防対策として次のような活動を行った。

・繁忙日での道路渋滞、駐車場渋滞に対し、警備員配置による公道整理のほか、職員による駐車場内の安全誘導。同様に、館内の誘導による混雑緩和。

- ・倒木、土砂崩れ、ハチ営巣等、登山道や自然歩道に関する情報発信のほか、関係機関 への対応要望。
- ・滑りやすい箇所に、滑り止め設置や立ち入りの制限。
- ・積雪時、開館時間前まででの除雪。屋根下など落雪エリアの封鎖、危険周知。
- ・職員の不審者への対応訓練と護身術の基本講習を大田警察署警察官講師により実施。

4 その他

日産自動車株式会社による電気自動車活用事例 創出事業にこのたび応募し、平成28年3月に電気 自動車の貸与を受け、島根県庁前でセレモニーが行 われた。今後「キャラバンカー事業」、「野生生物 の調査」、「屋外イベントの展開拡充」等に活用し、 電気自動車の普及・啓発をしていき、地球温暖化防 止を推進していく。



■ 2. 調査研究·資料収集 整理事業

(1) 事業概要

自然系の博物館として、地域の自然史解明や地域の自然環境保全に資する調査研究や、博物館資料の収集・整理・保管を行っている。また、外部の行政機関などからの調査研究や資料収集に関する事業や、普及啓発や環境教育に関する事業の依頼については、当財団の設立趣旨や、当財団がもつ専門知識や専門スタッフの必要性があるものについて、受託・協力している。

(2)調査研究

①研究項目と成果概要

〈指定管理業務における調査研究〉

口連星系・変光星・太陽系外惑星の観測

国内外の太陽系外惑星トランジット観測ネットワークに参加し、観測結果や観測技術について情報交換を行うとともに、当館の 60cm 反射望遠鏡において冷却 CCD カメラによる UBVRI 多色測光観測を実施した。また、当館の4連式クーデ望遠鏡を活用した連星系および変光星の光干渉計観測システムについて、国立天文台等の協力を得ながら構築を進めている。(矢田猛士)

ロプラネタリウム学習投影に関する研究

星の学習や学習投影に関する実態の把握のため、投影前のアンケート実施により、教員の意識を調査した。(竹内幹蔵)

口池田鉱泉を含む天然放射能を利用した放射線学習プログラムの開発

当館と地元の中学校教員との共同でプログラム開発を行い、教員向け研修会「教員のための博物館の日」(平成27年8月19日開催)において紹介し、参加した多くの教員の興味と関心を高めることができた。また平成28年3月には、東京学芸大学、島根大学、鳥取大学、鳥取環境大学、出雲科学館より、それぞれ教員や学生が参加し、池田鉱泉の視察および放射線学習についての意見交換会を当館で開催した。今後も連携して天然の放射能を活用した学習プログラム開発を進める予定である。(矢田猛士)

口三瓶山における数種モグラ類の種間関係の解明

これまでに三瓶山周辺で回収されたモグラ類の死体を解剖して標本化し、種判定を行った。北の原周辺の草原や樹林内でモグラの巣穴を調査し、種の違いによると思われる大口径〜小口径の巣穴を確認した。(安藤誠也)

口旧ふれあいの里奥出雲公園における希少鳥類等生息調査

旧ふれあいの里奥出雲公園(さえずりの森)における鳥類の生息状況の把握を目的に、 希少鳥類の繁殖調査と構成種の基礎調査を行った。希少鳥類調査では、アカショウビンを 対象として3年前からジオロケーターを装着して放鳥し、越冬地の解明を進めている。本 年度も複数個体にジオロケーターを装着することができた。構成種の調査では、平成23年 度にナラ枯れ対策として森林の一部が伐採されたことから、環境の変化とその影響につい て把握する予定である。(星野由美子)

口三瓶山周辺繁殖鳥類の渡り調査

三瓶山周辺は、天然記念物としての三瓶山自然林などがあり、多くの夏鳥などが繁殖を 行っている。そこで、繁殖鳥類のモニタリングも含め、鳥類に標識を行って渡り調査を実 施することで、越冬地やルート解明につなげるための調査を行う。平成27年度は、予備調 査として三瓶自然館水場周辺で標識調査を実施した。(星野由美子)

ロダイコクコガネの生息調査

東の原のダイコクコガネの生息状況を調査した結果、前年の秋に放牧休止期間のあった 影響は見られず、例年並みの生息数、繁殖個体を確認できた。また、確認した個体のサイ ズもすべて計測したが、顕著な変化は見られなかった。(皆木宏明)

ロウスイロヒョウモンモドキの生息調査

平成23年までは環境省、平成24年は島根県が中心となって生息調査を実施しているが、 平成21年確認記録を最後に三瓶山での生息を確認できていない。平成27年も女三瓶山で 6月に調査を行ったが、成虫や卵塊など本種の生息を裏付けるようなものは確認できなかった。(皆木宏明・三島秀夫)

口新種昆虫クロゲンセイの生息調査

島根県で発見された新種昆虫クロゲンセイの分布生態を明らかにするために、県内の生息地の確認や、成虫の発生状況の調査などを行った。(大畑純二)

ロレッドデータブック掲載植物・外来植物の現況調査

レッドデータブックに掲載されている植物で、現在の生育状況が不明な種のうち、本年 度はシダ植物の数種について、現地での確認調査を行うとともに、標本による既存の分布 情報の整理などを、有識者の協力を得ながら行った。 (井上雅仁)

□県立自然公園「地倉沼」(津和野町)の動植物調査

島根県内の県立自然公園である地倉沼を対象に、植物と昆虫を中心とした現況を把握するために、現地を踏査しながら動植物の記録を行った。(井上雅仁・三島秀夫)

口三瓶山半自然草原の草原管理と草原性希少植物保全の研究

三瓶山の今後の草原保全に資することを目指して、管理手法の違いに伴う草原性動植物の種類相や開花の変化についての調査を行い、保全活動が行われている希少植物をモニタリングし保全活動へのフィードバックを行うとともに、三瓶山草原の保全のために他の草原研究者と情報交換を行った。(井上雅仁)

ロタンポポ調査・西日本 2015

西日本で一斉に行われる「タンポポ調査・西日本 2015」の島根県事務局を担当し、2014年には予備調査を、2015年には本調査を実施した。予備調査では約 600点の、本調査では約 900点のサンプルが集まった。これらのサンプルを同定・集計し、取りまとめを行った。(井上雅仁)

口博物館の利用実態調査

年間を通じて、来館者から、居住地、来館動機などについて聞き取り調査を実施したほか、館外のイベントに際して、当館の知名度、情報の入手方法などを聞き取り調査した。 (龍 善暢)

<受託事業による調査研究・普及啓発>

口石見銀山遺跡自然環境モニタリング業務(島根県教育委員会より受託)

石見銀山遺跡における世界遺産登録後の自然環境の変化を追跡するために、コアゾーンを中心に動植物のモニタリング調査を実施した。遺跡内では、既往調査で記録された希少動植物の大部分が確認された。大久保間歩では、例年以上の越冬個体が確認されたコウモリもおり、一般公開後も冬眠場所として利用されていることが確認された。 (大畑純二・三島秀夫・井上雅仁・安藤誠也)

口自然観察会ガイド養成事業(島根県より受託)

自然観察会等で実践ガイドができる人材を育成するフォローアップ研修を行った。今年 度は松江城山公園をフィールドに、葉による樹木の見分け方の学習、自然解説の実施など を行った。(井上雅仁・星野由美子)

□三浦正昆虫館標本整理・活用業務(浜田市より受託)

浜田市三隅町出身の三浦正島根大学名誉教授が、浜田市に寄贈された昆虫標本の同定整理作業。合わせて収蔵展示を行っている三浦正昆虫館での標本管理の指導、昆虫館を会場に地元市民との昆虫採集や標本作成イベントを実施した。(皆木宏明・三島秀夫)

口自然史系博物館所有の生物多様性情報に関わるデータ提供(国立科学博物館より受託)

当館で整理が進められている杦村喜則氏収集植物標本のデータについて、所定の様式に変換し、約4,000点のデータを提供した。提出したデータは、国立科学博物館が運営する S-net や、国際的なデータベースである GBIF に掲載される。(井上雅仁)

口重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト 1000)

(公益財団法人日本自然保護協会より受託)

環境省が生物多様性国家戦略の中で提唱しているプロジェクトで、平成15年からスタートした。全国にサイトを設け動植物の生息状況を長期的にモニタリングすることで、生態系の劣化やその他問題点の兆候を早期に発見し、生物多様性の適切な保全のための対策に資することを目的としている。サイトは、森林、里地里山、湿地などの生態系タイプごとに分けられ、三瓶山北の原は、全国的に減少しつつある草地があることから、里地里山タイプのコアサイトとして主に植物と鳥類の調査を実施中。(井上雅仁・星野由美子)

②研究成果の公表(※印は館外の研究者)

口論文、報告書

- 太田哲朗・中村唯史(2016)マルチコプターによる地学教材開発の可能性. 島根県立三瓶 自然館研究報告 14: 75-76.
- 大畑純二 (2016) 2013 年の豪雨水害とその後の災害復旧工事による川平廃坑のコウモリ越 冬群への影響. 島根県立三瓶自然館研究報告 14: 1-7.
- 大畑純二 (2016) 島根のモモジロコウモリとテングコウモリ. 島根県立三瓶自然館研究報告 14: 19-26.
- 大畑純二 (2016) アメリカミズアブ (Hermetia illucens) とシオヤムシヒキ (Promachus vesonicus) の蛹化. 島根県立三瓶自然館研究報告 14: 37-41.
- 星野由美子(2016)2000 年から2016 年に三瓶山北嶺で観察された鳥類. 島根県立三瓶自然館研究報告14:47-55
- 三島秀夫(2016)島根県で採集されたガ数種について.島根県立三瓶自然館研究報告 14: 63-69.
- 皆木宏明(2016)2015年に島根県で初確認されたセアカゴケグモ(クモ目ヒメグモ科)の確認状況について.島根県立三瓶自然館研究報告14:43-46.
- 皆木宏明・三島秀夫(2016)浜田市で確認されたモートンイトトンボ(トンボ目イトトンボ科)について.島根県立三瓶自然館研究報告 14:71-72.

- 皆木宏明(2016)島根県初記録となるウスヒラタゴキブリ(ゴキブリ目チャバネゴキブリ 科)について.島根県立三瓶自然館研究報告 14:73-74.
- 井上雅仁 (2016) 島根県. タンポポ調査西日本 2015 調査報告書: 100-103.
- 井上雅仁・高橋佳孝*(2016)島根県三瓶山の刈り取り管理を受ける半自然草原における絶滅危惧植物オキナグサの動態.島根県立三瓶自然館研究報告 14:9-17.
- 支倉千賀子*・井上雅仁・丹後亜興*・池田 博*(2016)島根県隠岐の島の「チシマザサ」 について.島根県立三瓶自然館研究報告 14: 27-30.
- 龍 善暢 (2016) ことわざ「骨がかゆい」「骨の間にご飯粒が入る」の使用状況調査~企 画展「さんべホネホネ研究所」開催時のミニアンケートより~. 島根県立三瓶自然館研 究報告 14: 77-80.

□学会・研究会等での発表

- 井上雅仁 (2016, 5) 島根県の植物研究について. 植物地理・分類学会 2015 年度大会. (島根)
- 井上雅仁・高橋佳孝**・堤 道生**(2016,3)三瓶山火入れ草原における絶滅危惧植物ヤマトキソウの生育環境. 第63回日本生態学会大会.(宮城)
- 横川昌史*・井上雅仁・増井太樹*・太田陽子*・白川勝信*・堤 道生*・高橋佳孝*(2016,3). 島根県三瓶山東の原における草原の管理放棄に伴う種組成の変化. 第 63 回日本生態学会大会. (宮城)

(3) 資料の収集・整理

①自然系博物標本の収集と整理

口植物標本

枚村喜則氏収集のさく葉標本の整理、キノコレプリカの製作、各種調査にあわせた植物標本の収集を行った。データベース化された標本情報は、国立科学博物館の S-net での公開、GBIF での公開を予定している。また、島根大学と協力して、館所蔵のさく葉標本のスキャニングを行い、同大学内のホームページ上で画像を公開した。

林村喜則氏収集さく葉標本のデータベース化と登録:約4,000点 キノコレプリカの製作:タマゴタケの発生レプリカ1点

□動物標本

本年度製作した動物標本は鳥類、哺乳類併せて次の4種5点である。

本剥製標本:哺乳類製作:ニホンノウサギ(骨格標本、なめし皮)

鳥類製作:ルリビタキ(オス)、キクイタダキ(メス)

ツツドリ(赤色型)

口昆虫標本

寄贈及び調査研究等により収集した昆虫類の標本化と同定整理作業を進め、未整理分の森山チョウ類標本を中心に計2,000点の標本データの入力を行った。合わせて本年度は、新たに淀江チョウ類標本と岡昆虫標本の計28,000点の寄贈を受け、一部は次年度の企画展で展示する予定である。

口地学標本

島根県内の地学情報および資料の収集を行った。収集した資料の内訳は火山灰を含む岩石が13点、化石が13点であり、このうち化石2点は購入により取得した。収集した資料等については、順次収蔵標本として登録を行う予定である。また、個人および自治体等の団体所有の岩石・鉱物・化石の視察を行い、今後の活用について検討した。なお、今年度収集した資料の一部は次年度企画展の展示や普及啓発事業において活用する。

口天体画像

当館の天体観測施設において、天文現象を映像資料として記録した。今年度は太陽系天体のほか、散光星雲や系外銀河を中心に撮影を行った。

主な撮影天体:太陽、月、金星、木星、土星、M8、M20、M51、M81、M87、M104など。

②関連図書の収集

自然科学に関する図書や雑誌は、購入などにより収集に努めた。図書や雑誌の一部は常設の図書コーナーなどで来館者が閲覧できるようにしている。

購入図書:60冊

③資料の保守燻蒸

資料劣化の原因となる害虫やカビの防除を目的として燻蒸を行い、資料の劣化防止に努めた。収蔵庫の燻蒸は専門業者によって年2回実施した。展示、収集した資料を収蔵庫へ納める前や、常設展示の資料については、当館の大型常圧燻蒸庫を用いて適宜燻蒸を行った。

口収蔵庫の全室密閉燻蒸

対象:第一乾燥収蔵庫および第二乾燥収蔵庫の庫内及び収蔵資料

期間:6月23日および10月13日

□燻蒸設備を用いた燻蒸

対象:鳥獣剥製、昆虫標本、植物さく葉標本など

期間:適宜実施

3. JSTネットワーク形成先進的科学館連携型

(1) 事業概要

独立行政法人科学技術振興機構(JST)ネットワーク形成先進的科学館連携型の支援を受け、「自然と人の共生~科学技術からのアプローチ力を育てる~」をテーマとして、新たな科学コミュニケーション活動に挑戦し、各学校や科学館・博物館との間に密接なネットワークを構築することを目指して事業を実施した。

事業は平成23年度から5ヵ年にわたり展開してきたが、本年度をもって支援期間を終了した。事業のまとめと終了後の発展を図ったうえで、従来からの方針通り次の3つの柱の事業を実施した。

- ① 三瓶自然館の施設と立地を活かした活動 ~一般を対象~
- ② 小中高等学校と連携した活動 ~教員等を対象とした科学コミュニケーション力の向上~
- ③ 博物館・科学館・高専・大学等と連携した活動
 - ~地域の科学技術にも目を向け、科学技術や最先端の研究に興味がある人々を対象とした広域的な活動~

5カ年を通した各活動による主な成果は次のとおり。

- ・広く一般向けに各種講演会や展示 (パネル展、企画展、写真展等)を行い、県内外の 市民が科学技術と自然とのつながりについて認識を深める契機を作った。
- ・県内の理科教員と博物館をつなぐネットワーク「サヒメル理科ネット」を発足させ、 各ワークショップやメーリングリストによる交流を通して教員の博物館利用を促進させた。また年間を通した活動で科学好きの子供を育てる会員制の「サヒメル科学探険隊」を組織し、今年度までに 3 期の活動を実施、科学的探究心を育む取り組みを行った。学校向けに特殊教材を取り入れた学習プログラムを提供する「サヒメル理科キャラバンカー」では指導要領に沿ったプログラムを中心に県内の多数の学校で授業を実践し、教員との共同展開を基本として発展的な活動を行っている。
- ・ 県内の博物館施設や教育機関、また県外の博物館との共同事業を複数実施した。それ ぞれの施設の特長を最大限に活かし、普段の活動との差別化を図った。

(2) 事業内容

①三瓶自然館の施設と立地を活かした活動 ~一般を対象~

一般を対象に最先端の科学技術と自然・生活とのつながりを伝える事業として、写真展、 及びそのギャラリートークを実施した。

口空飛ぶ写真機~マルチコプターを駆使した最先端の自然風景(写真展) 再掲

期 間:10月10日(土)~10月25日(日)

参加者:6,781人

ロドローンで見た日本の絶景~空飛ぶ写真機(ギャラリートーク) 再掲

日 時:10月18日(日) 13:00~14:30

参加者:59 人 講 師:林明輝氏

②小中高等学校と連携した活動

~ 教員等を対象とした科学コミュニケーション力の向上~

日本を担う次の世代を育成する学校との連携を重視し、教員とのネットワーク「サヒメル理科ネット」の運用、三瓶自然館からスタッフや教材を持ち込み、教員と授業を行う「サヒメルキャラバンカー」、科学好きの子供を育てる「サヒメル科学探険隊」などを実施した。

a. 教員向け科学コミュニケーション講座

口太陽系外惑星命名への道

期 日:4月26日(日) 11:00~12:00

参加者:6人

内容:日本天文協議会 IAU 太陽系外惑星系命名支援ワーキンググループ代表を務める長野工業高等専門学校教授、大西浩次氏により、太陽系外惑星へ名前をつける国際的な取り組み、また太陽系外惑星そのものについて詳しく解説し

た。

口教員のための博物館の日

期 日:8月19日(水) 9:45~11:30

参加者:延べ25人

内 容: サヒメル理科ネットの会員や、サポートチーム(しまね海洋館アクアス)ス タッフによるワークショップを計4組実施し、学校教員と博物館とが連携し た教育プログラムの共有を図った。

(詳細はP21 ⑧自然学講座のとおり)

b. ホームページ、メールマガジン、メーリングリストの運用

ホームページ(http://rikanet.nature-sanbe.jp/)を運用し、同時にメーリングリストを利用した情報発信、メールマガジンの配信を行った。ネットワークを活用した教材の貸出、理科相談室の運用も同時に実施した。

c サヒメル理科キャラバンカーの運用

サヒメル理科キャラバンカーとして、「骨」をテーマとしたプログラムを小学校 3 校で 4 授業、中学校 1 校で 2 授業実施した。また「昆虫」プログラムを小学校 1 校 1 授業、「雲」プログラムを小学校 1 校 1 授業行った。このほか、昆虫プログラム教材を活用した教員主体による授業が中学校 1 校で 2 授業実施された。

d サヒメル科学探険隊(再掲)

日 時:5/17、6/14、9/20、10/11、11/8 年5回10:00~16:00

内容:理科好きな小学校4~6年生を対象に、自然科学に関する学習や観察を通じて、 自然科学への関心を引き出す活動を実施した。(参加者18名)。

第1回「バックヤード見学と昼の天体観察/活動日誌を書こう」(5月17日)

第2回「骨格標本をつくってみよう」(6月14日)

第3回「骨のふしぎとサヒメル夏の企画展見学」(9月20日)

第4回「地学オリエンテーリング」(10月11日)

第5回「よく飛ぶ紙ヒコーキの仕組みを調べよう/まとめと発表会」(11月8日) オープン講座「ドローンを使って地形を調べよう/太陽を観察しよう!」(3月5日)

③博物館・科学館・高専・大学等と連携した活動

~地域の科学技術にも目を向け、科学技術や最先端の研究に興味がある人々を対象とした広域的な活動~

県内外の学校や研究施設と連携し、幅広い展示や共同イベントを開催した。

口科学の祭典2015「科学の縁結び祭り」ほねホネ探偵団~カラダのふしぎに迫ろう~

連携機関:出雲科学館

期 日:8月1日(土)~2日(日)

参加者:419人

内 容:出雲科学館のイベント・科学の祭典に、サヒメル理科キャラバンカーの「骨」 プログラムを一般向けに出展。

□Kids サンデー・スペシャル 2015 i nひとはく

連携機関:兵庫県立人と自然の博物館

期 日:11月1日(日)

参加者:75人

内 容: 幼児から低学年を対象としたイベントに、サヒメル理科キャラバンカーの「昆虫」プログラムを子供向けにアレンジして出展。

4. 地域との連携、その他事業

(1)地域との連携

口姫逃池カキツバタ保全作業

日 時:6月14日(日) 9:30~12:00

参加者:約70人

内容:市民グループ、行政機関、一般参加の市 民ボランティアなどと協力して、姫逃池 のカキツバタの成長を助けるために草 刈り作業を行った。協力団体は次のとお り。大田の自然を守る会、NPO法人縁と



水の連絡会議、環境省松江自然保護官事務所、島根県環境生活部自然環境課、 大田市環境政策課、国立三瓶青少年交流の家、大田市観光協会、島根県自然保 護レンジャー、三瓶自然館インタープリターの会など。

ロ三瓶山広域ツーリズム振興協議会

大田市、美郷町、飯南町の1市2町の行政および団体で構成され、アウトドアを中心に、 三瓶山周辺地域への誘客を図る協議会に参画し、PR 活動、パンフレット作成、商品開発 に向けた勉強会等、各種事業を実施している。本年度、当館はアウトドアショップ「モンベル」の店頭における PR イベント「三瓶フェア」を担当し、事業の企画と、岡山店(5 月)、広島紙屋町店(3月)で事業を実施した。

ロ三瓶ヘルスツーリズム協議会

三瓶地区の各種団体で構成され、ウオーキング等、健康をテーマにしたヘルスツーリズム事業の推進に取り組む協議会。大田市医療対策課および観光振興課と協働で事業実施にあたっており、本年度は、協議会ホームページの立ち上げや、島根大学医学部の協力により、ヘルスチェック型のウオーキングイベントを実施した。

口石見銀山遺跡世界遺産登録 10 周年事業実行委員会

平成 29 年 7 月の石見銀山遺跡世界遺産登録 10 周年に向けて、各種事業を計画・実施する委員会で、保全活用部会、地域振興部会、産業振興部会の3部会で構成されている。当財団は、地域振興部会に所属し、大田市地域への観光誘客に向けた事業の計画に参画した。本委員会では、平成 28 年度から 30 年度に各種事業を実施する予定。また、保全活用部会にもオブザーバー参加した。

口三瓶地域合同懇親会

日 時:8月28日(金)

参加者:60名

内容: 三瓶地区の住民と三瓶に所在する施設職員の交流会を初めて開催した。池田、北三瓶、志学の三地区住民と当財団と国立三瓶青少年交流の家職員約60名でバーベキューを囲みながら、各地域や施設の紹介や相互交流で大いに賑わった。お互いの理解が進んでいく良い契機となった。

ロクリーン三瓶

日 時:5月17日(日)

参加者:200名

内 容: 三瓶周辺を清掃する「クリーン三瓶」があった。当財団も実行委員の一員として協力、参加し、お手植えの松から三瓶自然館まで、周回道路のごみ拾いを行った。

(2) 他施設との連携

□島根県自然系博物施設交流事業(三館交流)

三瓶自然館サヒメルと宍道湖自然館ゴビウス、しまね海洋館アクアスの県立自然系博物施設が合同で、情報交換会や研修会を実施した。

○事務担当者会議

日時:11月16日(月)~17日(火)

会場:しまね海洋館アクアス

○管理職会議

日時: 2月28日(月)

会場:しまね海洋館アクアス

○学芸担当者会議

日時: 2月22日(月)~23日(火)

会場: しまね海洋館アクアス

口広島市こども文化科学館

広島市こども文化科学館の2階フロアに三瓶自然館のブースを設置している。 平成27年度も随時更新を行い、企画展や天文情報、自然情報などの発信をした。

(3)行政への協力

各種委員会委員等の受諾

名称	氏名	期間	依頼元		
大田市環境審議会委員 (副会長)	酒井 浩純	H27. 7. 1 — H29. 3. 31	大田市長		
国立三瓶青少年交流の家施設業務運営委員会委員	酒井 浩純	H27.7.1 — H28.3.31	国立三瓶青少年交流の家所長		
大田商工会議所参与	酒井 浩純	H27.7.1 — H28.3.31	大田商工会議所会頭		
三瓶山広域ツーリズム振興協議会監事	酒井 浩純	Н27.7.1 —	大田市		
大田市観光協会副会長	酒井 浩純	H27.7.1 —	大田市観光協会		
三瓶小豆原埋没林保存検討委員会委員	酒井 浩純	H27.7.25 — H29.7.24	島根県知事		
大田市山村留学推進協議会委員	龍 善暢	H20. 4. 1 — H28. 3. 31	大田市教育委員会教育長		
日本プラネタリウム協議会理事	龍 善暢	H22. 7. 1 — H28. 6. 30	日本プラネタリウム協議会		
大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員	龍 善暢	H24.7.1 — H28.6.30	大田市教育委員会教育長		
石見銀山遺跡客員研究員	中村 唯史	H23. 4. 1 — H29. 3. 31	島根県教育委員会教育長		
出雲市文化財保護審議員	中村 唯史	H27. 6. 1 — H29. 5. 31	出雲市長		
江津市文化財保護審議員	中村 唯史	H27. 4. 1 — H29. 3. 31	江津市長		
大田市文化財保護審議員	中村 唯史	H28. 4. 1 — H30. 3. 31	大田市長		
大田市社会教育委員	中村 唯史	H28. 2. 1 — H30. 1. 31	大田市長		
希少野生動植物種保存推進員	井上 雅仁	H21.7.1 —	環境大臣		
島根県自然環境保全審議会委員	井上 雅仁	H21.11.12 — H30.1.31	島根県知事		
石見銀山遺跡整備検討委員会委員	井上 雅仁	H20. 10. 20 —	大田市教育委員会教育長		
石見銀山遺跡客員研究員	井上 雅仁	H22. 6. 22 — H29. 3. 31	島根県教育委員会教育長		
島根県環境影響評価技術審査会委員	井上 雅仁	H24. 1. 1 — H29. 12. 31	島根県知事		
石見銀山遺跡調査専門委員会委員	井上 雅仁	H26. 4. 28 — H29. 3. 31	島根県教育委員会教育長		
志津見ダム・尾原ダムモニタリング委員会委員	井上 雅仁	H26. 10. 16 — H28. 3. 31	国土交通省中国地方整備局長		
斐伊川放水路環境モニタリング協議会委員	井上 雅仁	H27. 3. 16 — H28. 3. 31	国土交通省出雲河川事務所長		
島根県農業農村整備事業環境情報協議会委員	星野由美子	H14. 4. 1 — H28. 3. 31	島根県農林水産部農村整備課長		
自然観察指導員講習会全国講師	星野由美子	H16. 4. 1 —	公益財団法人日本自然保護協会		
島根県環境影響評価技術審査会委員	星野由美子	H17. 1. 1 — H29. 12. 31	島根県知事		
島根県自然環境保全審議会委員	星野由美子	H26. 1. 16 — H30. 1. 31	島根県知事		
大田市文化財保護審議員	星野由美子	H26.4. 1 — H30. 3.31	大田市長		
ホシザキグリーン財団客員研究員	星野由美子	H27.4. 1 — H28. 3.31	ホシザキグリーン財団事務局長		
島根天文協会会長	竹内 幹蔵	Н17. 6 —	島根天文協会		
希少野生動植物種保存推進員	大畑 純二	H21.7. 1 —	環境大臣		
大田市文化財保護審議員	大畑 純二	H26.4. 1 — H30. 3.31	大田市長		

(4) 各種研修の受け入れ

□博物館実習

·島根大学 11月11日(水)~16日(月) 実習生:10名

ロインターンシップ(職場体験)

・高校生 2名(島根県立邇摩高等学校)

口教育関係研修

・教員免許状更新講習(主催:国立三瓶青少年交流の家)

日 時:8月7日(金)·8月9日(日)

内 容:天文・・・授業に活かせる天体観察の指導法【実習】

植物・・・子ども達がワクワクする自然観察の技術【講義・実習】

Ⅲ. 環境保全活動支援事業

■ 1. 事業概要

当財団は、島根県の豊かな自然環境を守り、自然と調和した持続可能な地域づくりを進めるために、地方自治体などの行政組織をはじめ、さまざまな地域課題の解決に自ら率先して取り組む、NPO法人や任意団体、各種ボランティアなどを支援する中間支援組織として、分野横断的な取組や多様な主体が協働する取組を今後一層促進するため、活動の充実を図った。

また、地球温暖化の進行がより顕著となり、その対策の一層の強化が求められている中 (IPCC 第 5 次評価報告書)、日本は、COP21 における約定事項を踏まえ、2030 年度までに 26% (2013 年度比)、特に、家庭部門においては 40% (2013 年度比)という高い CO2 削減 目標 (COP21 日本の約束草案)を設定し、温室効果ガスの削減に取り組むこととなった。

当財団は、島根県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受け、これまで地球温暖化対策に取り組んできたが、低炭素・循環型社会を目指して、地球温暖化防止にかかる県民の意識を喚起し、県民一人ひとりがライフスタイルを見直し、温室効果ガスの実効的な削減につながる生活に密着した取組を進めるために、多様な主体と協働・連携しながら、活動を進める。

2. 地球温暖化対策

(1) 家庭向け地球温暖化対策事業

①県地球温暖化対策協議会生活部会の運営

県地球温暖化対策協議会・生活部会の事務局として、同部会に参画する各種団体と連携しながら、生活者の立場で進める地球温暖化防止の県民運動に取り組んだ。

・運営委員会の開催 計2回(会場:タウンプラザしまね)

第1回 7月1日 活動の実施状況の確認

第2回 12月14日活動評価、次年度活動活動計画の検討

②草の根で取り組むエコの種まき事業の実施

a 広報活動

- ・県民一般に対し、地球温暖化防止活動の重要性を伝え、実践を促すため、年間を通じた財団ホームページによる情報の提供、島根県広報の利用、リーフレットの配布等の広報活動を展開した。
- ・夏季の「冷蔵庫」、秋季の「エコドライブ」、冬季の「省エネ」を中心に家庭における省エネ促進を啓発する取り組みを行った。
- ・県内各地域において開催されたイベント等を活用し、島根県地球温暖化防止活動推進 員、各市町村地球温暖化対策地域協議会会員等と連携しながら運動を推進した。

b しまねエコライフサポーターズの活動支援

県内で活動する島根県地球温暖化防止活動推進員どうしが連携し、地域での温暖化防止活動を主体的に企画・実施できるよう、推進員のネットワーク化と活動支援を行った。

◆主な内容

ロネットワークの立ち上げ支援

概 要:推進員どうしが連携し、より地域に密着した温暖化防止活動を促進するため、 平成26年2月より推進員の有志と財団により「推進員ネットワーク準備会」を 立ち上げ、ネットワーク化に向けての調整および準備を進め、平成27年度7月 に推進員のネットワーク組織である「しまねエコライフサポーターズ」を立ち 上げ、連絡会などで情報を共有しながら、活動を行った。

活動グループ:8地域7グループ(松江グループ、奥出雲グループ、出雲グループ、大

田グループ、江津・浜田グループ、益田グループ、隠岐グループ)

連絡会の実施:第1回 7月14日 ネットワークの立ち上げ

第2回 8月24日 グループでの活動企画

第3回 10月19日 活動ルールづくり

第4回 11月26日 研修企画、活動企画等

第5回 1月7日 研修内容の調整、雲南市庁舎見学

第6回 3月11日 各グループの活動企画提案

ログループによる活動

概 要:地域に密着した温暖化防止活動を行うため、居住市町村もしくは隣接する地域で、地域グループを構成し、活動を企画・実施した。活動にあったっては、各地域グループが企画書および予算書を作成し、連絡会で合意形成を図った後、活動を実施した。財団は、事務局として経費の執行や事務処理等をおこなうことで、グループの円滑な活動を支援した。

活動内容: (松江) 子ども向け環境学習活動と環境フェスティバル展示等

(奥出雲) 小学校出前授業、利き水会と文化祭展示

(出雲) 環境講演会と再生可能エネルギー活用研修

(大田) 地球温暖化と防災シンポジウム、環境学習とエコアクション見本市

(江津・浜田) 唐黍を使ったミニ箒作り

(益田) 地域の活動に関する意見交換

(隠岐) 保育園でのエコ活動、紙芝居、エコバッグ作り

c エコドライブ推進キャンペーン

環境省他各省庁が連携して取り組む11月のエコドライブ推進月間に合わせ、エコドライブの普及啓発及びエコドライブの実践による CO₂ 削減を目的としたキャンペーンを下記のとおり実施した。

◆主な内容

概 要:エコドライブの実践方法を分かりやすく解説したリーフレットを作成し、各市町村や各推進員等の希望者を通じて県内各所で配布した。また、エコドライブ推進月間の開始に合わせ温暖化対策地域協議会及び地球温暖化防止活動推進員と協力し、県内の6市町で一斉にリーフレットを配布する街頭PR活動を行った。

実施日:11月1日及び4日

配 布 数:5,000部

協力団体:安来市、松江市、出雲市、大田市、浜田市、益田市、邑南町、まつえ環境市 民会議、出雲市省エネルギービジョン推進協議会、大田市地球温暖化対策地 域協議会、浜田市地球温暖化対策地域協議会、益田市地球温暖化対策地域協 議会

実施場所:安来プラーナ、イオン松江店、出雲ドーム、イオン大田店、、ゆめタウン浜田、 イオン益田店、道の駅みずほ

d 親子で取り組むもったいない生活事業

幼稚園児、保育園児とその保護者に家庭内で省エネに取り組んでもらえるよう、「親子で取り組むもったいない生活事業」を幼稚園及び保育園を所管する県各課と連携し、各園に参加を呼びかけ、実施した。

◆主な内容

口親子で取り組むワークシート

概 要:幼稚園児、保育園児が取り組みやすいように、島根県観光キャラクター「しまねっこ」のイラストを用いたワークシートを作成し、幼稚園及び保育園を所管する県各課と連携して各園に参加を呼びかけ、希望した幼稚園及び保育園に配布した。また、取り組み期間内に CO2 削減行動アンケートを実施し、各家庭における CO2 削減が確認できた。

期 間: 平成27年7月~平成28年1月

実施園:夏期:54園(園児数:1,692名)、冬期:44名(園児数:1,405名)

削減量:1,346kg-CO2

口親子で取り組むミニエコ講座

概 要: 県内の幼稚園・保育園に参加を呼びかけ、希望した22 園でミニエコ講座を実施した。講座では、絵本等の読み聞かせを行った後、布製のバッグにクレヨン等で絵を描いて自分だけのマイバッグを制作するワークショップを行った。

期 間:平成27年6月~平成28年1月 実施 園:50園(参加者数:1,463名)

推進員:延べ69名が活動

e 生ごみ減量の実施と見える化及び広報事業

「3R普及啓発事業」の項を参照。

③普及啓発資材の企画と作成

家庭において、地球温暖化を知り、県民 1 人ひとりの省エネ行動を推進するため、主婦層や就学前の幼児向けにわかりやすい普及開発資材等を作成し、省エネ行動の普及啓発に利用した。

◆主な内容

概 要:ブタのキャラクターを使い、未就学児が自らの行動を考える内容のしかけ絵本「エコブタくんとエゴブタくん」を作成した。また、読み聞かせの際の参考にしていただくため、内容の解説本(父兄・先生用)を作成した。

部 数:絵本 20冊

解説本 100 冊 (保育士・教員用)

貸 出 先:各市町村担当課・島根県地球温暖化防止活動推進員・県内幼稚園・保育所(園)

他

(2) 家庭の省エネ促進支援

COP21 において、我が国が示した「日本の約束草案」では、家庭から排出される CO_2 を 2030年までに 2013年比で 40%削減することとされており、今後より実効性ある CO_2 削減対策が必要となる。島根県においても家庭部門の CO_2 排出が課題であり、これらの削減を進めるため、家庭の省エネ行動へとつなげる普及啓発を行った。

①家庭における省エネの見える化の推進

a 家庭の省エネ情報の発信

楽しみながら家庭で省エネを実践できるよう情報提供を行うポータルサイト「しまねエコビレッジ」を運営し、本サイトを県民に広く周知し、利用者の獲得を行うともに、利用者のニーズに応えるためコンテンツの改善と充実を図った。

◆主な内容

ロサイトデザイン及びコンテンツの一部リニューアル

概 要: HPのトップデザインを変更することで、機能向上とイメージアップを図るとともに、定期的にデザイン変更するシステムを新たに取り入れ、サイトへの訪問促進を図った。また、地球温暖化や家庭の省エネ等の話題に親しみを持ってもらうためのツールとして、「エコクイズゲーム」と動画「オロチさんとシロクマさん」を制作した。

利用者数:延べ823名(年4回)

ロサイト利用者獲得のための PR

概 要:ポータルサイトの概要やコンテンツを紹介したリーフレットを作成することで、 本サイトの周知と利用者の獲得を図った。リーフレットは小さく折りたたんで持 ち 帰りやすい形状にする、ポータルサイト内で登場する「エコのタネ」にちな みシードペーパーを添付するなど、工夫した。

配 布 数:1,000部

配 布 先:店頭、子育てサロン、環境イベント等

口省エネ啓発記事の掲載

要:季節に合わせた家庭での省エネに関する記事の掲載を、情報誌(民間のフリーペーパー)で行うともに、省エネに興味を持った読者が一歩進んだ省エネ行動へ踏み出せるよう、省エネの見える化とより詳しい情報提供のツールとして環境家計簿及びポータルサイトの紹介を行った。

掲載誌:情報誌「クルール」(県内東部及び鳥取県西部の幼稚園、保育所等に配布)

発行部数:40,000 部(20,000 部×2) 発 行 月:平成28年1月および3月 配 布 先:県内幼稚園、保育所、書店等

b エコライフチャレンジしまね(環境家計簿記帳)の実施

環境家計簿(愛称「エコライフチャレンジしまね」)は、県民自らが家庭のエネルギー種別使用量を入力することで家庭からのCO2排出量を算定するツールで、継続して利用することで、年間のエネルギー使用の傾向とそれに合わせた対策を立てることができ、家計の無駄に気が付き、節約にもつながるなど、家庭での地球温暖化防止活動の促進に有効な取組である。

◆主な内容

□郵送版環境家計簿記帳

概 要:各家庭からのエネルギー使用報告(3ヶ月毎)に基づき、診断書、診断コメン

トや類似家庭との比較を作成・送付し、省エネ関連情報を提供するなど、家

庭での身近な温暖化防止(エコライフ)の取り組みを推進した。

利用者数:延べ823名(年4回)

□WEB 版環境家計簿

概要:家庭の省エネポータルサイト「しまねエコビレッジ」内に、WEB 版環境家計簿

を設置し、登録者が随時家庭でのエネルギー使用量を入力できるシステムにより、使用状況の推移や平均世帯との差異、省エネ対策などのアドバイスなどを閲覧できることで、家庭での身近な温暖化防止(エコライフ)の取り組

みを推進した。

利用者数:72名

②家庭の省エネ講座の実施

家庭で取り組める省エネの方法や対策による効果について分かりやすく伝える省エネ講座を開催し、県民の省エネ行動を促した。

◆主な内容

概 要:一般家庭を対象に、誰もが家庭で取り組める省エネ方法を学ぶとともに、そ

の具体的な実践方法を身につける講座とした。特に、県内で家庭のエネルギー消費量として多くを占める自動車を取り上げ、エコドライブの模擬体験や次世代乗用車の活用事例紹介を行った。また、化石燃料に代わる地域で自給可能なエネルギーへの理解を深めてもらうため、木質バイオマスエネルギーで調理ができるエコストーブを取り上げ、トーブの実地制作と普及啓発を行

った。

期 間:11月7日~1月28日

実施回数:5回(試行実施1回を含む)

参加者数:174名

③家庭の省エネ診断事業の実施

家庭のエネルギー使用量や地域性、ライフスタイルに合わせて CO₂ 排出量や光熱費の削減に効果的な対策を具体的に提案する「うちエコ診断」について、実施機関の認定を受け、診断士の登録および診断業務を行った。

◆主な内容

口診断の実施

概 要: 県環境政策課、市環境担当課等と連携して受診者を募り、県内5カ所の会場 に診断士を派遣し、診断を行った。また、当事務所では、随時診断を受け付

け、診断を行った。診断結果に基づき、対策提案を行うとともに、事後調査

を実施し、受診者の対策状況を把握した。

実施件数:44件

実施場所:県内6ヶ所(松江市、出雲市、奥出雲町、江津市、益田市、エコサポしまね)

削減量: 45,086kg-C02/年(一世帯あたり、1,454kg-C02/年・世帯)

診断士数:13名

④全国統一家冷蔵庫利用実態調査の実施

日常生活における温室効果ガスの排出実態を把握し、今後の家庭における省エネ関する普及啓発や対策に資するため、全国地球温暖化防止活動推進センターが企画する「全国統一冷蔵庫利用実態調査」を県民を対象に実施した。

◆主な内容

概 要:家庭で利用する家電のうち、もっとも消費電力量が大きい冷蔵庫の利用実態 調査を実施した。調査結果は、全国地球温暖化防止活動推進センターが取り

まとめた。分析結果は、日常生活に関する温室効果ガスの削減ポテンシャル の把握につながるとともに、今後の地域における省エネ対策等に活用する。

期 間:平成27年9月~11月

回 収数:296件

(3) 地球温暖化防止活動推進員の支援

島根県地球温暖化防止活動推進員(以下「推進員という。)は、86名(平成28年3月31日現在)が活動しているが、島根県から島根県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けている当財団が、その資質向上のための研修の企画・実施を行うとともに、推進員の支援および協働・連携し温暖化防止活動を行った。

①推進員研修の実施

a 第1回研修

テーマ:「これからの推進員活動は?」

概 要:推進員としての今後の活動展開のためのアイデアをまとめ、推進員自ら企画書 を作成し、実際の活動に活かせるようにする。また、県内各地域において推進 員同士がお互いに連携して活動を進めることができるよう推進員のネットワー

クを模索する。

講 師:清水 妙子氏(推進員)

日 時:5月20日(木) 10:00~15:30

会 場: あすてらす (大田市)

参加者:25名

b 第2回研修

テーマ:「今年度の活動報告と、これからさらに活動を深めるために」

概要:地域に根ざした推進員活動を行うために、「しまねエコライフサポーターズ」を立ちあげ、さまざまな主体と協働・連携を図りながら地域グループにより活動に取り組まれているが、今後より一層の温暖化防止活動を進めるために、地域で取り組んだ活動の事例発表により情報を共有し、さらに次年度の活動につなげるために各事例を分析することでグループ活動の拡充に繋げ、活動のさら

なる活性化を図った。

講師:上田 康二氏(脱温暖化センターひろしま センター長)

日 時:12月16日(水) 13:30~17:00 12月17日(木) 9:00~12:30

会場:島根県市町村振興センター (松江市)

参加者:16日 34名 17日 25名

c 第3回研修

テーマ: 「活動をカタチにするために~企画書の作成~」

概 要:推進員がさまざまな主体と協働・連携し、各地域でそれぞれの実情に合った実 効性のある温暖化対策に取り組むために、その目標を設定し、解決策を具体化す る方法を学び、来年度の活動に向けての企画書を作成した。

講師:上田康二氏(脱温暖化センターひろしま センター長)

日 時:平成28年2月26日(金) 10:50~16:00

会 場: いわみーる (浜田市)

参加者:26名

d スーパー推進員研修

概 要:地域の推進員の活動を牽引し、リーダー的な存在として活躍していただける推進員を養成するため、中国四国各県(島根県・鳥取県・岡山県・広島県・山口県・香川県・愛媛県・徳島県・高知県)で活躍する地球温暖化防止活動推進員が一堂に会し、交流を図るとともに、一層の活性化に向けてレベルアップをめざす研修会を実施した。

講師:西直人氏(リードクライム株式会社)

日 時:9月10日~11日

場 所:高松センタービル(香川県高松市)

参加者:62名 (内島根県6名)

②セミナーへの参加

一般向けに地球温暖化に関するセミナーを開催し、県民が地球温暖化に関する最新の知見を学ぶことができる機会を提供した。

◆主な内容

概 要:「暑い、熱い、地球はこれからどうなるの ~温暖化防止セミナー~」と題し (詳細は「地球温暖化についてのセミナー」の項を参照)、地球温暖化に関す る最新の知見や、地域でどのような現象が起こり、どのような影響が起きるの かを知り、学ぶことができる内容とした。本セミナーには推進員も参加し、今 後の普及啓発活動の基礎知識を身につける機会とした。

(東部)

日 時:8月29日(土) 13:00~16:00

会 場:出雲科学館 (出雲市)

参加者数:25名

(西部)

日 時:8月30日(日) 10:00~13:00

会場:いわみーる (浜田市)

参加者:10名

(4) 地球温暖化にかかる普及啓発

COP21 におけるパリ協定の採択を受けて、これからの地球温暖化防止に対する機運を高めるため、パネル展やセミナーを開催した。また、啓発広報誌を発行し、これらに関する情報発信を行うとともに、普及啓発を行った。

①地球温暖化についてのセミナー

地球温暖化についての最新の知見を学ぶとともに、地域で起こりつつある地球温暖化の事例を取り上げ、地球温暖化が身近に起こっている現象であることを伝える講演会を行った。

◆主な内容

概 要:地球温暖化に関する第一線の研究者から、IPCC 第5次評価報告書や COP21 に関連する最新情報やこれからの温暖化対策について、また、地元講師から農業や海洋生態系など地域で見られる地球温暖化の影響や、人間に起こりうる温暖化の被害について講演を行った。会場内では、地元団体による身近な環境啓発取組をパネル等で紹介し、参加者に実践可能な地球温暖化対策を提案した。

テーマ:「暑い、熱い、地球はこれからどうなるの ~温暖化防止セミナー~」

概 要:地球温暖化に関する最新の知見や、地域でどのような温暖化に関する現象が起こり、どのような影響が起きるのかを知り、学ぶことができる講演会を開催した。

講 師: (両会場)

江守 正多 氏 (国立環境研究所気候変動リスク評価研究室室長)

「地球温暖化の最新情報」

(東 部)

紫藤 治 氏(島根大学医学部医学科教授)

「暑い夏を健康に過ごす方法」

(西 部)

安達 二朗 氏(浜田市水産業振興協会)

「海洋環境の変化と水産資源」

新井 章吾 氏((株)海中景観研究所所長)

「藻場が消える?海をかえる魚」

日 時: (東部)

日 時:8月29日(土) 13:00~16:00

会 場:出雲科学館 (出雲市)

参加者:65 名

(西部)

日 時:8月30日(日) 10:00~13:00

会場: いわみーる (浜田市)

参加者:70名

② 地球温暖化防止啓発パネル展の開催

地球温暖化の現状を伝え、県民による地球温暖化防止活動を促すため、図書館や市役所と連携し、温暖化に関するパネル展を開催した。会場内では身近な省エネ行動を紹介するリーフレットの配布や、温暖化防止活動の提案募集も行った。

◆主な内容

□島根県立図書館

概 要:地球温暖化の現状と世界・日本への影響、様々な適応策と、CO2 排出量を抑える ライフスタイル等について、わかりやすく学ぶ事ができるパネルを作成し、展 示を行った。また、地球温暖化や家庭でできる省エネに関する書籍の展示を行 った。

期 間: 12月4日~28日

会 場:島根県立図書館ホール(松江市内中原町)

口雲南市役所

概 要:地球温暖化の現状と世界・日本への影響、様々な適応策と、CO2 排出量を抑える ライフスタイル等について、わかりやすく学ぶ事ができるパネルを作成し、展 示を行った。

期 間: 2月1日~12日

会 場:雲南市庁舎 多目的ホール (雲南市木次町里方)

③ 地球温暖化防止啓発広報誌の発行

身近な生活にも影響が出ている地球温暖化に関する事例や地域における温暖化防止の取組、活動団体等を紹介し、県民の関心を高めることを目的に、啓発広報誌「しまエコ」を制作し、関係各所に配布した。

◆主な内容

概 要: IPCC 第5次評価報告書に基づく地球温暖化に関する最新知見や、温暖化の人

間社会に与える影響やその対策について、わかり安く身近な内容を盛り込ん

だ広報誌を作成し、普及啓発を行った。

発行部数:16,000部(2,000部×3回、増刷10,000部)

配布 先:各市町村担当課・島根県地球温暖化防止活動推進員・県内の環境活動団体、

事業者等

発行テーマ: しまエコ Vol. 6 [2015年7月発行]

【特集】からだと地球の SOS

【温暖化をみる】後退する氷河 (ヒマラヤ)

【楽エコ】服を着ない日はない。だからもう一度考えよう。

【エコサポしまね紹介】オススメ★夏ワザ

しまエコ Vol. 7 [2015年12月発行]

【特集】エコな住まい

【温暖化をみる】海面上昇

【しまエコ応援団!!】松江工業高等専門学校「炭の蓄電器」

【楽エコ】知らなきゃ困る!?COP のハナシ

しまエコ Vol. 8 [2016年2月発行]

【特集】食卓が変わる?温暖化と農業

【温暖化をみる】おんだんか、みっけ!

【しまエコ応援団!!】有限会社金田商店「地元のエコを支えて」

【楽エコ】生ゴミで進む 温暖化?!

(5) 全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)との連携

全国地球温暖化防止活動推進センターに指定されている一般社団法人地球温暖化防止全国ネット(平成22年8月設立)との連携に努めるとともに、中四国ブロックや他県の地域地球温暖化防止活動推進センターとの共通事業に取り組み、逐次情報交換を行った。

◆主な内容

全国センター会議への出席 東京 1名 2回(6月、3月) 中四国ブロック会議への出席 岡山市 各2名 3回(4月、10月、1月)

3. 県民の3R推進事業

家庭から出る生ごみの堆肥化は、可燃ゴミの減量化により CO2 の排出削減に寄与するとともに、ゴミを生物の力で堆肥化(再資源化)する過程を通じて、自然界における物質循環の仕組みを学ぶ機会になる。コンポスト容器及びミミズコンポストを用いた生ごみ減量手法を周知し、減量効果を測定するモデル事業を下記のとおり実施した。

(1) コンポスト容器による生ごみ減量と効果測定

◆主な内容

□講演会

概 要:講演会『生ゴミ堆肥の作り方』~家庭から STOP 温暖化(仮題)を開催し、生ごみ減量を呼びかけるとともに、実地に生ゴミコンポスト容器の設置作業を行った。

講師: 福渡和子氏(NPO 法人生ごみリサイクル全国ネットワーク)

期 日: 11月12日

場 所:サロン・ド・ゆきみーると七色館中庭(大田市大田町)

口生ゴミ計量の取組

概要:上記の講演会参加者から生ごみコンポストの設置と生ごみ計量の取組への協力者をつのり、一定期間生ごみ減量効果を測定した。

期 間: 12月~3月 取組人数:大田市民 7名

·削減量:165 kg

□意見交換会

概 要:生ごみ計量の取組への協力者が集い、減量の現状と生ごみ堆肥の活用等について、 アドバイザーを交えて、意見交換会を実施した。また、生ごみ堆肥を設置している家庭 を訪問し、現地見学を行った。

アドバイザー: 土居勝栄氏((一社)MOA 自然農法文化事業団島根県普及員)

期 日: 平成28年3月29日

場 所:サロン・ド・ゆきみーると七色館中庭(大田市大田町)

(2) ミミズコンポスト BOX による生ごみ減量と効果測定

◆主な内容

□講演会

概 要:講演会『ミミズで生ゴミ・リサイクルしませんか!』及び意見交換『ミミズコンポストと環境教育』を開催し、ミミズコンポストの取組参加者を募った。

講師:加用誠男氏(広島ミミズの会主宰)

期 日:10月15日

場 所: 益田市立市民学習センター(益田市元町)

□県外視察

概要:講義『児童生徒と取り組む「みみずリサイクル Box」』と施設見学を実施するとともに、和歌山県地球温暖化防止活動推進センターを交えた取組意見交換を行った。

講 師:山田真器子氏(NPO 法人みみずリサイクル代表)

日 時:11月17日

場 所:ミミズリサイクル BOX 設置施設(和歌山県岩出市根来)

口牛ゴミ計量の取組

概 要:講演会参加者からミミズコンポスト BOX の設置と生ごみ計量の取組への協力者

を募り、一定期間生ごみ減量効果を測定した。

期 間: 2月~3月

取組人数:益田市民等 8名

削減量:228 kg

□意見交換会

概 要:ミミズコンポスト Box の設置の希望調査、環境教育ツール(循環型社会、ミミズと生態系) 作成に関する検討を行った。次年度は、益田市内の保育園へミミズコンポスト Box 設置 を働きかけることとした。

日 時:12月14日、1月19日、2月16日、3月18日

場所:益田市役所、市民学習センター及び現地(益田市白上町)

(3) 普及啓発コンテンツの制作

◆主な内容

口啓発動画の制作

概 要:本年度の取組を今後の生ごみ減量にかかる普及啓発に活かすため、広報動画「生ごみ

減量大作戦!」を作成した。

制作物:啓発動画:第1話「台所の生活習慣を見直そう」

弟2話「おウチの生ごみ活用術」

口啓発ブックレットの制作

概要: 4コマ漫画やイラストを交え、若年層に受け入れられやすい内容とした、家庭での生ごみ

減量の取組を解説したブックレットを作成し、市町村等関係機関に配布した。

制作数:2,000部

配布先:各市町村担当課・島根県地球温暖化防止活動推進員等

4. 環境保全活動支援

(1) 情報収集及び情報提供

県民のニーズに考慮した環境関連ライブラリーや環境学習機材の整備等を図るとともに、各種メディアやホームページ、環境イベント、三瓶自然館広報誌「さんべ発」などを利用し、年間を通じて県民に情報提供を行った。

◆主な内容

貸出図書の購入 33 冊 パネル、機材の貸出 21 回

「さんべ発!」への記事掲載 年6回 (3,000部/回)

(2) 普及啓発資材の作成と提供

誰にでもわかりやすく、地球温暖化の仕組みを伝えるため、短編のアニメーションを作成し、Youtube などのインターネット動画サイトやホームページで公開した。また、県内のケーブルテレビで随時動画を放映できるよう、ケーブルテレビ局へ動画素材を提供した。なお、松江市及び江津市の環境担当課に協力を仰ぎ、それぞれの地域の方言で吹き替えも行い、地域で親しまれるものとなるよう配慮した。

(3) 地域の多様な主体との協働の推進

地域のニーズを踏まえた取組を促進するため、地域の多様な主体と協働・連携をすすめ、行政や環境団体団体とともに、活動の企画・運営・支援等を試行的に行った。

①おおだ自然エネルギーパークの共催

持続可能な地域づくりを目指して、再生可能エネルギーの利用やライフスタイルの転換を考え、体験できるイベントについて、事業の企画・立案、実施を連携・支援した。

◆主な内容

概 要: 薪ストーブやペレットストーブを用いた木質バイオマスなど自然エネルギーを 知ことができるコーナーをはじめ、丸太切りや茅葺き体験など昔の生活から学 ぶコーナーや瓦でつくったロケットストーブなど、災害時に活用できる知恵を 体験できるコーナーなど、多様な出展を行った。

参加者:500名

主 催:おおだ自然エネルギーパーク 2016 実行委員会

共 催:大田市地球温暖化対策地域協議会、国立三瓶青少年交流の家、公益財団法人し まね自然と環境財団

協 賛:道の駅ロード銀山、JA しまね、ぎんざん市場、大田市森林組合

後 援:大田市

日 時:3月5日(土)

場 所:道の駅ロード銀山(大田市)

③ ESD プログラム実証事業への参画

持続可能な地域づくりを担う人材育成を目的とし、中国地方の各県(鳥取県、島根県、岡山県、広島県及び山口県)毎に1つずつ、地域性を踏まえた小中学生向けのESDプログラム(以下「地域版ESDプログラム」という。)」を作成・実証を行う事業について、島根県のコーディネーターとして参画し、協働で事業を実施した。

◆主な内容

既 要:浜田市金城町雲城地区に生息するハッチョウトンボの保護・保全活動をテーマに、地域住民と小学生が協働で進める「ようせいの守人プロジェクト」を立ち上げ、各主体が連携しながら、地域で持続可能な活動のしくみづくりを行った。

実施期間:7月~2月

場 所:浜田市金城町雲城地区

対 象:地区の小学生および地域住民

事業主体:環境省(事業受託団体:NPO法人ひろしまNPOセンター)

連携団体:雲城ハッチョウトンボを守る会、雲城公民館、浜田高校自然科学部、浜田市 環境課、NPO 法人ひろしま NPO センター、公益財団法人しまね自然と環境財団

(4) 環境団体等への協力および支援

県内の行政機関や環境団体等が実施する事業について、ニーズに合わせて多様な協力 および支援を行った。

◆主な内容

□相談 環境保全や温暖化防止についての相談

(行政機関) 25 件 (その他) 15 件

□講師派遣

体験学習「宍道湖の生物と環境」

(派遣先) 川跡ビオトープ友の会

(回数)5回

講座「小学生向け家庭の省エネ講座」

(派遣先) 松江市内小学校

(回数)3回

「地球温暖化と自然災害に強い地元づくりシンポジウム in おおだ」

(派遣先) 大田市地球温暖化対策地域協議会

「ESD学びあいフォーラム in 島根」

(派遣先) 環境省

口事業協力 エコイベント等の出展

(行政機関が実施) 6カ所

(民間団体が実施) 1カ所

□事業支援 環境保全や温暖化防止についての事業支援

(地域協議会) 4団体

(環境団体等) 2団体

(5) 人材育成(環境アドバイザー派遣)事業

地域住民や民間団体等が行う環境保全・温暖化防止に関する意識啓発、学習を促進するために、その指導者として専門分野別に「しまね環境アドバイザー」18名(任期3年)を委嘱、配置し、県内各地からの要請に応じて環境講座や地域ボランティアの育成及び実技指導を行った。 特に、環境全般、ゴミリサイクル、気象などの専門家を新たに講師陣に加え、内容の充実を図った。

◆主な内容

アドバイザーの派遣手続き(周年) 直接派遣 47回、 紹介派遣 2回

(6) 環境保全活動支援事業

県内のボランティア団体や法人による環境保全・地球温暖化防止を目的とした主体的な 取り組みを促すため、活動の開始又は継続に要する資金の一部を助成した。本年度は、当 初募集では、応募団体が少なかったため、7月に二次募集を行った。

◆主な内容

助成内容 ボランティア団体、NPO 法人等:事業費の 2/3 以内助成で、80 万円限度

募 集 (一次)平成27年4月1日~5月6日

(二次) 平成 27 年 7 月 13 日~8 月 12 日

※当初の助成決定額が予算を下回ったため、2次募集を行った。

広報の実施 (一次)募集チラシ及び申請の手引きの配布 2,500部

(二次)募集チラシ及び申請の手引きの配布 500 部説明会の開催

説明会の実施 4月に5会場(出雲、松江、隠岐、益田、浜田)において助成金合同説明会を開催。

相談会の実施 4月24日に大田市で、助成金の申請方法などについての相談会を実施。 審査会の開催 (一次)6月18日に審査員6名により審査を行った。 (二次)6月3日に審査員5名により審査を行った。

	申請件数 (件)	申請事業費 (千円)	申請助成額 (千円)	交付決定件数 (件)	助成決定額 (千円)
1次募集	22	9, 074	5, 929	13	2, 992
2次募集	4	1,913	1, 268	3	598
計	26	10, 987	7, 197	16	3, 590

Ⅳ. 北の原キャンプ場管理運営事業

本年度は大田市からの指定管理指名2期目5年間の初年度であった。ケビンとテントサイト、ペット同伴バンガロー、ドッグランの管理運営を行った。県有施設時代からの運営で蓄積されたノウハウを活かして安定した管理運営にあたるとともに、三瓶自然館の指定管理者としての利点を活かして、一体的な事業展開、PRによりさらなる集客を目指した。

基本理念である「豊かな自然環境を活かし、自然に親しむ場を提供する」を実現するために、国立公園三瓶山の豊かな自然環境と、その自然に囲まれた施設の魅力を最大限に引き出し、来場者が自然の中での生活~アウトドアライフ~を楽しめるような管理運営に心がけた。

来場者の安全・安心への配慮を欠かすことなく、キャンプ初心者から中級者向けのイベントや、キャンプ用品の貸出、食材の提供など、これまでに培ったノウハウを活かしながら、新たな魅力づくりにも心掛けた。また、国立公園の中にあるキャンプ場として、中国地方屈指の規模を活かして、利用の拡大を図るとともに、三瓶山観光の拠点施設として、三瓶自然館とともに大田市観光を牽引する役割を果たした。

1. 利用促進業務

4年目を迎えたドッグ関連施設を活用し、ペット情報誌やペットショップ、インターネットのペット情報サイトに積極的に情報提供を行い、ペットと泊まれるキャンプ場として、新たな客層としての愛犬家への認知度向上に努めた。

また、西部勤労者共済会、アウトドア用品メーカーのモンベル、スポーツ量販店等と 提携した各種割引企画を継続し、新規顧客の開拓にも努めた。

主な広報活動の実施内容は次のとおり。

- ・広島で開催された「島根ふるさとフェア 2016」の大田市ブースでパンフレット配布などのPRを実施した。2日間で16万人以上の来場者があり、広島という最大の市場で有効な宣伝活動ができた。
- ・自社HP及び提携キャンプ関連HPに、ドッグランやイベントの紹介を掲載。
- ・ツイッターを活用し、最新の三瓶とキャンプ場情報を発信。
- ・島根県の観光情報サイト「島根情報ナビ」のアウトドアコーナーへの情報掲載。
- ・山陰中央新報「りびえ~る」の全面記事と広告の掲載。
- ・中国新聞への広告掲載。
- ・地元ケーブルテレビに出演し、ケビン宿泊と鍋のセットプランと歩くスキーをPR。
- ・出雲市の大型スポーツ用品店2店舗のキャンプコーナーに、パンフレットの配布継続。
- ・中国横断道尾道松江線の道の駅「たたらば壱番地」専用ラックに、パンフレットの 配布継続。
- ・県内集客イベント「石見肉まつり」(江津)に出店し、1.1万人以上にキャンプ場をPR。

■2. 管理体制

利用者が快適なアウトドアライフを過ごせるよう、特に、愛犬家も利用しやすい施設となるよう配意し、スタッフの人員配置を行っている。

通常期は、スタッフ7名の体制により、利用者の対応、施設・設備の安全点検及び環境 美化等に万全を期している。また、場内の除草作業には専門のスタッフ6名を配置し、雑 草により景観を損ねないよう配慮している。

利用者が増加する繁忙期は、さらに4~8名程度増員し、宿泊施設の清掃、場内トイレ・シャワー棟の清掃、大量に排出されるゴミの処理等に当らせ、衛生管理を徹底している。

一方、利用者が激減する冬期間は、正規職員スタッフ4名ですべてを対応し、人件費の 節減と適正な人員配置に努めている。

3. 施設維持管理

キャンプ場開設以来 47 年が経過しており、施設・設備の老朽化、経年劣化に伴う故障や不具合が多発している。大田市と協議を重ね修繕計画に沿った修繕作業を実施しているが、予期せぬ箇所の故障が続発するなど、修繕が追いつかない状況にある。今後も継続して発生することが懸念され、早急の課題となっている。また、今年秋には、インターネット回線の故障が発生し、復旧までに半年を要した。メール予約やサイト上での空き状況照会ができなかったため、多くのお客様からお叱りを受け、冬期のケビン利用にも影響をおよぼした。このような事例を二度と発生させないよう、大田市との連携を強化して維持管理に努めたい。

本年度においても多数の故障及び不具合が発生したが、利用者の快適で安全な利用を第一に、必要最低限の修繕を実施した。

主な修繕個所と修繕内容は次のとおり。

- ・ケビン手摺り、バンガローベランダの材料交換
- ・ケビン等の浴室混合水栓、トイレの給排水バルブ…部品交換

■ 4. 利用状況及び収支状況

ドッグランとバンガローは、隣接する三瓶バーガーのドッグカフェとの相乗効果もあり、 遠方から訪れる利用者もあるなど安定した利用で推移した。

但し、一年で最も利用者の多い5月連休と盆休みが好天に恵まれ、さらに秋の大型連休があったことにより、利用が大きく増加した。年間累計では、オートサイト設置後で最も 多い売上金額を確保した。

一方支出関係においては、修繕件数の増加により、収支状況は厳しいものとなったが、 経費削減を徹底することにより、最低限の利益を確保した。

5. 自主事業

(1) イベントの実施

ロビギナーズ・キャンプ・セミナー

期 日:6月13日(土)~6月14日(日)

参加者: 5組18人

内容:キャンプ初心者を対象に、テントの設

営・撤収方法、火のおこし方、飯ごう炊 さんの仕方を指導し、1泊の体験キャン プを行った。丁寧で実践的な指導に、参

加者からは好評を得た。



ロワンちゃんのお手入れ教室

期 日:10月25日(日)

参加者: 6家族 13 名

内容:ドッグランを活用した新たなイベントとして、愛犬家に犬の基本的な手入れ

方法を指導する教室を開催した。講師とマンツーマンによる親しみのある指

導で、参加者から好評を得た。参加者の8割がキャンプ場のドッグランを利

用したことが無く、施設PRの良い機会となった。

(2) 他イベントへの会場提供

ロノルディックウォーク

三瓶自然館が新しく企画したイベントと連携し、会場の提供及びノルディックポールの貸し出しを行った。普段キャンプに縁のない参加者や、初めて訪れる参加者も多く、新たな客層 73 名に効果的なキャンプ場の PRになった。

口北の原ファンタジー

三瓶自然館の冬の人気イベント「北の原ファンタジー」と連携し、県内外から集まった親子連れ600名以上に、暖かい食事場所や外遊びを楽しむ会場を提供した。

(3) 利便提供事業

キャンプ場宿泊者の利便性向上のため、食品の販売や、キャンプ用具の貸し出しを行った。

6. その他の事業

(1) 地域と連携した観光振興に関する事業

国民宿舎さんべ荘と連携し、県内外から訪れたキャンプ場宿泊者に温泉割引券を配布 し、多くの利用者が三瓶温泉を利用した。

大田市産の「銀山赤鶏」を使った鍋の食材販売を、冬期のケビン利用者に行い、地元食材のPRを行った。

(2) 大田市全体及び三瓶山周辺観光のインフォメーション機能を担う事業

セントラルロッジ内に観光情報コーナーを設置し、大田市観光 MAP を掲示し、キャンプ場宿泊者の観光案内を積極的に行った。登山者への登山ルートの案内をはじめ、温泉津温泉や石見銀山、三瓶小豆原埋没林など主要観光地へのルート案内、食事どころや大田市の見どころ紹介などを行った。

(3) 三瓶広域ツーリズム振興協議会への参画

大田市、美郷町、飯南町1市2町および関係団体で構成される協議会に参画し、モンベル広島紙屋町店・岡山店で開催された「三瓶山フェア」において、キャンプを含む三瓶山エリアでのアウトドアをPRした。

V. 利便提供事業

1. 物販事業

(1) 三瓶自然館

ミュージアムショップ「ひめのが」では、自然科学に関連するもの、キャラクター「テンピー」を用いた商品、三瓶山来訪の記念になる土産的な商品を販売した。また、 夏期は企画展のテーマ「骨」に関連する商品を特集して、販売増を図った。また、新たな 取り組みとして、毎月の定期イベント「サヒメルきっずサンデー」のメニューとして、 紫外線硬化型樹脂の工作を有料で実施した。

従来、飲料自動販売機を設置してきたが、島根県が入札制度を導入したことに伴い、 今年度から他業者が実施することとなった。

(2) 三瓶小豆原埋没林公園

受付周辺に物販棚を設置し、埋もれ木の派生材(発掘時に出土した倒木等)を利用した 独自商品のほか、近隣の製菓子店と共同開発したクッキーなどの販売を行った。

派生材の商品は、当施設の利用者に人気が高いが、良質な材料が乏しくなったことにと もない、種数が限られるようになり、売り上げも減少している。今後、新たな材料の入手 はまず望めない状況で、派生材に頼らない商品展開が課題である。

(3) 三瓶北の原キャンプ場

三瓶山北の原キャンプ場の「キャンパーズショップ」では、宿泊者の利便向上を目的に、 キャンプに関連する商品を販売した。また、夏期はバーベキュー、冬期は鍋の食材セット を販売することで、手軽にキャンプができるイメージによる施設利用の促進を図った。

また、西部勤労者共済会の会員サービスに協力し、格安バーベキュー企画を行ったところ、益田をはじめ県西部からの利用者が多くあり、新たな客層を得るよい機会となった。

2. 貸出事業

北の原キャンプ場において、テントや毛布、炊事用品等のキャンプ用品の貸し出しを行った。用品の貸し出しは、売上による収入のほか、利用者が用品を準備する負担が軽減されることによる利用拡大が期待される事業である。

キャンプ用品のほか、夏期はノルディックポール、冬期は歩くスキーとスノーシューの 貸し出しを行った。例年に比べ積雪量が少なかったことが、貸出件数に影響した。

Ⅵ. 各種資料

1. 数値目標を掲げた運営

(1) 入館者目標、収入目標の設定

各施設毎に利用者数目標又は利用料金収入目標を設定し、運営を行っている。本年度の 夏期企画展は、収益性より啓発性を重視した内容としたことから、利用者数、利用料金と も目標を低めに設定したが、松江城国宝化の逆風による県西部の観光客減少の余波もあり、 目標の達成はならなかった。

(2) 全施設の目標値と達成状況

平成27年度 施設別月別目標達成率一覧表

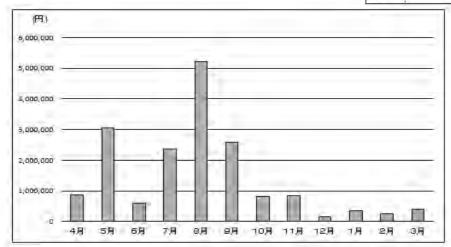
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一折点处给	H27目標	5,000	15,000	5,000	20,000	35,000	16,000	12,000	5,000	2,000	3,000	3,000	4,000	125,000
三瓶自然館 (天体含む) 入館者数(人)	H27実績	5,391	15,344	5,163	12,930	25,398	16,153	10,304	6,515	1,275	4,017	3,949	3,039	109,478
八路伯奴(八)	達成率	107.8%	102.3%	103.3%	64.7%	72.6%	101.0%	85.9%	130.3%	63.8%	133.9%	131.6%	76.0%	87.6%
天体観察会	H27目標	600	1,200	600	1,300	1,800	1,100	700	400	100	150	150	200	8,300
入館者数(人)	H27実績	751	1,430	717	1,202	2,120	1,616	876	128	43	227	110	96	9,316
	達成率	125.2%	119.2%	119.5%	92.5%	117.8%	146.9%	125.1%	32.0%	43.0%	151.3%	73.3%	4,000 12 3,039 10 76.0% 200 96 48.0% 1 1,000 2 1,007 2 100.7% 293,980 19,3 147.0% 1 570,000 21,8	112.2%
	H27目標	2,000	3,000	2,000	2,000	4,000	3,000	2,500	2,500	400	300	300	1,000	23,000
埋没林公園 入園者数(人)	H27実績	1,253	3,132	1,584	2,173	2,919	2,807	2,427	2,142	413	405	419	1,007	20,681
	達成率	62.7%	104.4%	79.2%	108.7%	73.0%	93.6%	97.1%	85.7%	103.3%	135.0%	139.7%	100.7%	89.9%
	H27目標	700,000	2,600,000	700,000	2,500,000	6,000,000	2,600,000	1,241,000	700,000	200,000	200,000	200,000	3,949 3,039 11 31.6% 76.0% 150 200 110 96 73.3% 48.0% 300 1,000 : 419 1,007 : 39.7% 100.7% 200,000 200,000 17 145,080 293,980 19 72.5% 147.0% 480,000 570,000 21 389,560 621,770 18	17,841,000
キャンブ場 利用料金(円)	H27実績	458,845	2,774,820	594,535	2,834,635	6,324,010	3,303,690	1,383,065	870,945	190,820	210,640	145,080	293,980	19,385,065
	達成率	65.5%	106.7%	84.9%	113.4%	105.4%	127.1%	111.4%	124.4%	95.4%	105.3%	72.5%	147.0%	108.7%
	H27目標	750,000	2,250,000	830,000	3,750,000	7,320,000	2,530,000	1,220,000	1,150,000	350,000	600,000	480,000	570,000	21,800,000
物販・貸出 売り上げ(円)	H27実績	688,885	2,664,313	835,338	2,351,964	4,817,988	2,792,282	1,351,596	1,097,258	343,056	404,870	389,560	621,770	18,358,880
	達成率	91.9%	118.4%	100.6%	62.7%	65.6%	110.4%	110.8%	95.4%	98.0%	67.5%	81.2%	109.1%	84.2%

(3) 収入実績

口 三瓶自然館収入状況

月	4月	5月	5月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	t月.	2月	3月
収入額 (円)	872,650	3,047,070	587,990	2,361,970	5,214,630	2,595,580	822,410	835,640	153,020	349,430	253,480	401,510

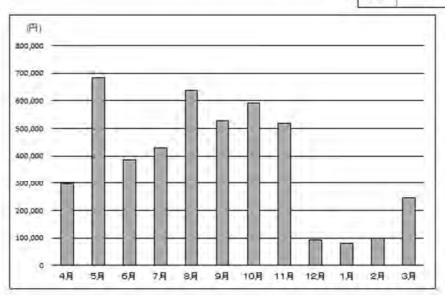
合計 17,495,480

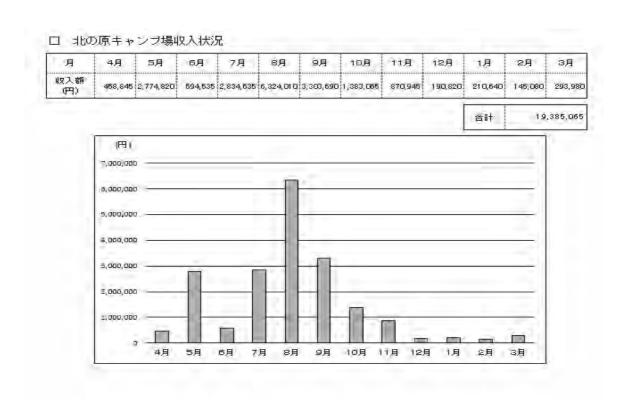


口 埋没林公園収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入額	297,550	683,140	387,340	428,720	636,570	526,740	592,220	517,620	94,170	79,770	98,750	245,250

合計 4,587,840

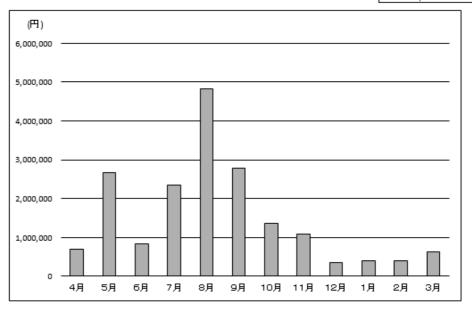




□ 利便提供事業収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入額 (円)		2,664,313			4,817,988				343,056	404,870		621,770

合計 18,358,880

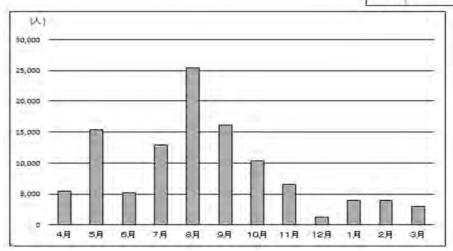


(4)利用者数

ロ 島根県立三瓶自然館サヒメル

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総入館者 (人)	5,391	15,344	5,163	12,930	25,398	16,153	10,304	6,515	1,275	4.017	3,949	3,039

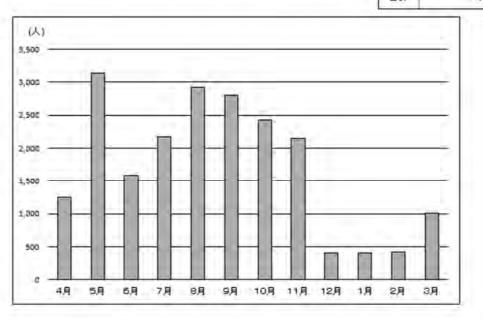
合計 109,478



口 三瓶小豆原埋没林公園

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総入園者(人)	1,253	3,132	1,584	2,173	2,919	2,807	2,427	2,142	413	406	419	1,000

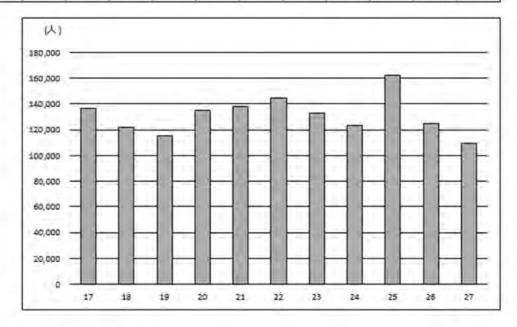
合計 20,681



2. 利用者数の推移

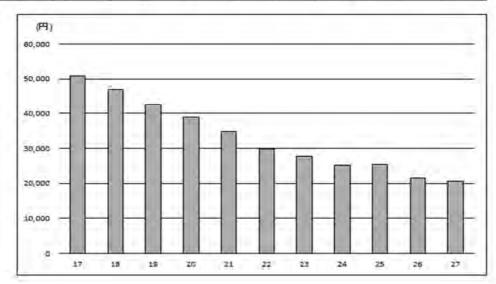
ロ 島根県立三瓶自然館サヒメル

年度	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
総入館者 (人)	136,776	122,308	115,601								,



□ 三瓶小豆原埋没林公園

年度	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
総入圏者 (人)	50,832	46,943	42,625	38,948	34,846	29,669	27,807	25,206	25,527	21,505	20,681



3. 沿 革

昭和63年度 「三瓶フィ ールドミュージアム構想」が、先導事業開発構想推進会議で「リフレッシュリゾ

しまね構想事業」として決定。同じく、自治省の「ふるさとづくり特別対策事業」として決定。 「三瓶フィールドミュージアム整備事業」開始。 平成元年度

三瓶自然館(以下「自然館」)中心とする三瓶フィールドミュージアムの基本・実施設計の作成。

平成2年度 自然館及び附属施設、着工。

平成3年度 財団法人三瓶フィールドミュージアム財団設立(7月1日、以下「財団」)。

自然館完成、全国育樹祭にともない皇太子殿下御来館。

自然館オープン (10月19日)

平成4年度

平成5年度

日が明る ファ (10月19日)。 財団、新たに「三瓶山北の原キャンプ場(以下「キャンプ場」)」の管理運営を受託。 三瓶フィールドミュージアム整備終了。 三瓶フィールドミュージアムが「三瓶山自然体験ゾーン」として島根県の長期計画(1994~2010

年)の戦略プロジェクトに位置づけられる。 島根県、「三瓶山自然体験ゾーン拡充整備検討委員会」を設置。

平成7年度 三瓶山自然体験ゾーン拡充整備検討委員会、自然館の機能強化を求める報告書を提出。 キャンプ場、過去最高の年間5万4千人の利用者を記録。 平成8年度

平成9年度

自然館名誉館長として俳優の柳生博氏を起用、委嘱(平成15年度まで)。 常陸宮殿下、妃殿下御来館。 三瓶町多根小豆原で、約3,500年前に埋没したスギ林の存在を確認。調査方法及び保存方法の 平成10年度 検討を開始。

島根県、「三瓶埋没林調査保存検討委員会」を設置。あわせて埋没スギの自然館での展示を検討。 平成11年度

三瓶山自然体験ゾーン拡充整備事業、整備着工。 キャンプ場新管理棟(セントラルロッジ)、完成。 平成12年度

三瓶埋没林調査保存検討委員会、埋没林の保存を求める報告書を提出。島根県知事、小豆原埋没林の保存方針を発表。

平成13年度

自然館拡充工事開始。工事進捗にともない11月末をもって自然館閉館。 自然館拡充工事完了。「三瓶自然館サヒメル」として再オープン(4月18日)。 平成14年度

自然館、通算100万人の来館者を達成。

秋篠宮殿下、 妃殿下御来館,

小豆原埋没林現地の公園化整備開始。

自然館、過去最高の年間22万人の来館者を記録。

平成15年度 キャンプ場へ利用料金制導入。

新たに「三瓶小豆原埋没林公園」の管理運営を受託。

E瓶小豆原埋没林公園(以下「埋没林公園」)」オープン(5月2日)。

自然館、日本博物館協会に加盟。

平成16年度 「三瓶小豆原埋没林」国の天然記念物指定(2月27日)。

新たに「ふれあいの里奥出雲公園(以下「ふれあいの里」)」の管理運営を受託。

埋没林公園来園者10万人達成。

平成17年度 指定管理者制度が導入され、財団が自然館及び附属施設の指定管理者となる(平成17年度~平成

21年度)。

7月豪雨によりふれあいの里が被災し、臨時休園となる。 平成18年度

自然館開館15周年(10月19日)。

平成19年度

高円宮妃殿下、自然館及びふれあいの里御来訪(4月30日)。 旧島根ふれあい環境財団21の事業及び財産を継承(4月1日)。 平成20年度

松江事務所開設。環境保全活動への助成、地球温暖化を含む環境問題の啓発等の事業を開始

(4月1日)

埋没林公園入園者30万人達成(4月12日)

法人名称を「財団法人しまね自然と環境財団」に改称(7月1日)。

高円宮妃殿下御来館(1月22日)

平成21年度 自然館、通算200万人の来館者を達成(7月12日)。

ふれあいの里、営業終了(12月。3月をもって正式閉鎖)。 自然館、プラネタリウム設備更新のためビジュアルドームの運営を休止(12月~3月)。3月末

から新型プラネタリウムの運営開始。 キャンプ場、大田市へ売却譲渡(3月)

平成22年度 島根県から2期目となる自然館及び附属施設の指定管理者指名を受ける。また大田市施設となっ

たキャンプ場の指定管理者として、大田市から指名を受ける(いずれも平成22年度~平成26年度)。

財団、公益財団法人へ移行(4月1日)。これに伴い法人名称を「公益財団法人しまね自然と環境 平成23年度

無料化(平成26年9月まで)

'三瓶山"国立公園指定50周年記念事業実行委員会(会長:大田市長)が設置され、財団が事務局

を務める。平成25年度一年を通じて関連イベントを開催。 埋没林公園、開園10周年。記念式典(4月27日)ほか、関連イベントを一年を通じて開催。 特別企画展「さんべ恐竜王国(7月13日~9月29日)」を開催。現在の企画展期間(2ヶ月半)としては 平成25年度

過去最高となる99,203人の来館者を達成。

財団研究員が隠岐で巨大ワニの化石を発見。 平成26年度 大田市から北の原キャンプ場指定管理者として指名を受ける (平成27年度~平成32年度)

島根県から3期目となる自然館及び附属施設の指定管理者指名を受ける(平成27年度~平成35 年度)

平成27年度 自然館、上映設備更新のためビジュアルドームの運営を休止(2月~3月)。

関連記事 4.

山陰中央新報 15.4.9 (木)



星きらめく自然風 サヒメルで写真10点展示 景

関心を高めてもらおうと、 宇宙、地域の自然などへの 場者が写真家の力作に見入 た「星景写真」を紹介する 60点を展示した。 同自然館などが企画。 っている。5月24日まで。 然館サヒメルで開かれ、来 大田市三瓶町の県立三瓶自 星のある風景写真展」が、 星景写真を通して天文や 星空と地上の風景を写し 田泰典氏の作品に加え、地町並みと星空を撮影した原 元天文愛好家が県内で撮影 風景で目を引きつける。

境に思いを巡らせてほし 芸術性が高まる。身近な環 境に思いを巡らせて 事業室長(47)は「星に加え て地上の風景が入ることで した作品も並んでいる。 同自然館の竹内幹蔵天文

とともに活写。長野市の冬 の自然の中で撮影した大西 京駅や東京都庁などの夜景 している東山正宜氏は、 でいる東山正宜氏は、東 都会の星をテーマに撮影

浩次氏の作品は、星と雪、

樹木が織り成す美しい

東日本大震災の被災地の

読売新聞 15.5.22(金)



公益財団法人しまね白然と環境財 団松江事務所(しまねエコライフサ ボートセンター) が、地球温暖化に ついて学ぶアニメ動画3個を、ウェ プサイト「しまねエコピレッジ」(h tips://www.eco-shimane.net/) 7 公開した。

各1分間の動画には、クリエイタ 一・大畑蘭さん (大田市) の手がけたキャラクター「オロチさん」と「し ろくまさん」が登場。鳥根の方言を 交えつつ、「エネルギーの無駄をな くそう」と、家庭での省エネを呼び かけている。

同事務所の担当者は「温暖化など 関係ないと思っている方にこそ、ぜ ひ舞覧していただきたい」と話して 113. (阿信雄)

「来館者守れ」職員真剣

サヒメル 不審者想定し訓練



訓練で不審者役(左)に対応する職員

通報や避難誘導に当たっ 確認した職員は、110番 フで来館者らを襲うのを 署員扮する不審者がナイ

1階ロビーなどで行っ

無差別に襲うという想定犯人が参加。ナイフを持った 常時の適切な対応を身に付が見込まれることから、非 した。 初めて実施した。 けようと、同館と大田署が 報や避難誘導の方法を確認 審者対応訓練があり、万が の事態に備えて職員が通 アテンダントら職員約40

然館サヒメルで5日、不大田市三瓶町の県立三瓶 は 宏文館長は「今後も訓練を重ねていきたい」と話し 宏文館長は「今後も訓練した。 に。署員が到着するまでの 間、威嚇する不審者に対し、 「応した。

目然館サヒメルで5日、

館の中村唯史学芸員は、第一時の活動期は約4千年前。同たら7回活動期があり、最後一 関心が高まる中、大田市三 新岳の噴火などで火山への鹿児島県・口永良部島の や火山災害への備えを説 いて、専門家が現在の状況 山 (標高1126於) につ 以内に噴火活動があった活 メルで13日、火山をテーマ 火山に位置付けられる三瓶 陰両県で唯一、過去1万年 にした講演会があった。山 瓶町の県立三瓶自然館サヒ 一瓶山は、約10万年前か 約70人が聞き入っ の恐ろしさを知ることが重 た。現在の状況では、三瓶 在の松江市にも灰が積もっ などの拡散について、「現 准教授が、災害の備えに関 院理工学研究科の瀧本浩 究を行っている山口大大学 した。 かな状態が続いている」と いないことを説明し「穏や 山で火山性の地震が起きて た」と規模の大きさを伝え 1活動期の噴火での火山灰 避難方法を確認することの なって、万一の際の手順や 要」と指摘。地域が一体と 続いて、 防災に関する研

三瓶噴火の歴史知って 議覧災害への備え説く



中村唯史学芸員(右)から三瓶山の過去の 活動や現状の説明を聞く参加者

県などが企画した。 県などが企画した。 県などが企画した。

ハッチョウトンボ(しまねレッ

ートンイトトンボの雌

岐諸島では確認されて

この休耕田では20

1

川本支局

盆田支局 \$0855(22)1636 FAX(31)0040 浜田支局 \$0855(22)1845 FAX(24)0061

20855(72)0262 FAX(72)3004

松江支局 20852(23)3322 FAX(23)3324

中国新聞 15.7.16(木)



「ホネホネ研究所」展開幕 『一巻のの特徴』『格で

の体のつくりを学んでいる。9月27日まで。 はまざまな生物の骨格標本を紹介する企画展「されていまな」の体のつくりを学んでいる。9月27日まで。 はまざまな生物の骨格標本を紹介する企画展「されていまなどでは、山陰中央新報社など共催)が17 然と環境財団主催、山陰中央新報社など共催)が17 などの骨格標本を紹介する企画展「されています」という。

大田

サヒメルに標本70点

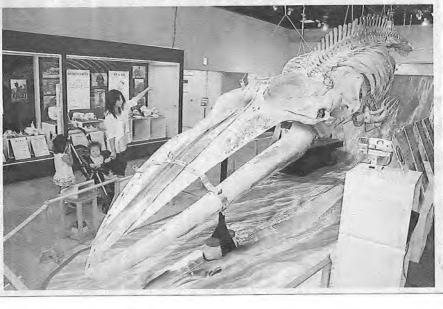
同自然館の安藤誠也学芸

「展示を通して骨の共

ニタリクジラの全身骨格標 ジャイアントパンダの全らおうと企画。全長12次の 類、約70点を展示している。 生物が環境に適応するた 本や体長約3がのナウマン

身骨格標本は、前足の親指 の外側にもう1本指のよう の外側にもう1本指のよう の外側にもう1本指のよう でして紹介されている。アフリカに生息するアミメキフリカに生息するアミメキカンの頭から首までの骨格 などもあり、訪れた家族連れらが興味深そうに見ている。

小中高生200円。 小中高生200円。



ニタリクジラの全身骨格標本を見る家族連れ

山陰中央新報社など共 瓶自然館サヒメルで13 **通して動物の体の仕組み** ね自然と環境財団主催、 格標本を紹介する企画展 さんベホネホネ研究所 全身骨格の組み立てを 県立三瓶自然館、 大田市 さまざまな生物の骨 子どもたちがキリン の関連イベントがあ 三瓶町の県立三 しま た。

キリンの全身骨

の組み立てを 動物の して、 体の仕組みを学

格への理解を深めてもら 家族連れら35人が参加し おうと企画。県内外から 広島市安佐動物公園の 同自然館が、動物の骨 サヒメル、企画展関連 て体験

などを一本一本並べてい

るように首の骨やろっ骨 ら、キリンの体の形にな

上さんの指導を受けなが

続いて、参加者が野々

とても勉強になった」と 骨があることが分かり、 (10)は「いろいろな形の 学5年生の妹尾茜さん った。 米子市から参加した小

野々上範之さん

大きく発達した」と説明 いており、背骨の突起が したキリンの骨を示しな 見を持ち上げる筋肉がつ 33)が講師を務め、 つの骨からできている。 「キリンの首は七



98 点が並んだSSP巡回展

自然科学を中心に活動 SSP展~自然を楽し SSP展~自然を楽し お科学の眼」を開いて いる。 SSPは日本自然科 学写真協会の略称で、

虫、植物、水中、天体、写真は鳥や動物、昆

が連続して上映されて

倍スロー)など11作品ウジョウバエの求愛(8の)、釧路湿原空撮、ショイヤモンド富士、ショイヤモンド富士、ショイヤモンド富士、ショイヤモンド富士、ショイヤモンド富士、ダ

5然科学写真がずらり

の巡回写真展「第36回」る。会期は1月24日まで、冬の企画展として、 展を開いており、山陰で、冬の企画展として、 展を開いており、山陰立三瓶自然館サヒメル 10カ所を巡回して写真立三瓶自然館サヒメル 10カ所を巡回して写真 大田市三瓶町の県 している。毎年、全国

の作品もある。

今年は動画部門もあ

i i

とができない生き物の まで、普段目にするこ 顕微鏡写真などさまざ 火曜日と12月27日~1 月1日。 問い合わせは サヒメル(電話085 時まで。休館日は毎週 午前9時半から午後5 学できる。開館時間は 中高生200円)で見 料 (大人600円、小 も珠玉の作品が集まっ 来館を」と呼び掛けて より一層楽しんでいた いる。上映時間は16分。 だけると思う。ぜひご た。動画部門もあり、 SSP写真展は入館 サヒメルでは「今回

4.86.05000) (

表情や、貴重な一瞬を 起えたA3サイズの写 真が、2階の回廊から 企画展示室まで98点展 示されており、鮮やか で美しい写真は見ごた え十分。栗林慧さん(生

5. 資 料

II. 島根県立三瓶自然館 (7新聞への寄稿)

掲載日	掲載紙	タイトル	担当
4/1	島根日日新聞	生き物の季節観測	皆木宏明
4/5	読売新聞	ハイテク機材を用いた動物調査	安藤誠也
4/8	山陰中央新報	近づく月と惑星	竹内幹蔵
4/15	島根日日新聞	ホネを使った博物館実習	安藤誠也
4/22	山陰中央新報	星座早見を使おう	竹内幹蔵
4/29	島根日日新聞	メガスター再び登場	太田哲朗
5/6	読売新聞	名は体を表す山野草	井上雅仁
5/6	山陰中央新報	ミザールとアルコル	竹内幹蔵
5/13	島根日日新聞	企画展を準備する	星野由美子
5/20	山陰中央新報	金星	竹内幹蔵
5/27	島根日日新聞	赤名湿原を守ろう	井上雅仁
5/31	読売新聞	ヒナじっと砂隠れの術	星野由美子
6/3	山陰中央新報	土星	竹内幹蔵
6/10	島根日日新聞	ソンブレロ銀河	矢田猛士
6/17	山陰中央新報	天の川の中心	竹内幹蔵
6/21	読売新聞	傾き大きく環くっきり	矢田猛士
6/24	島根日日新聞	目を引く身の隠し方・カメノコハムシ	皆木宏明
7/1	山陰中央新報	三つの七夕	竹内幹蔵
7/8	島根日日新聞	指ってなぜ5本!?	安藤誠也
7/15	山陰中央新報	ペルセウス座流星群	竹内幹蔵
7/19	読売新聞	美しい輝き	皆木宏明
7/22	島根日日新聞	迫力のドーム映像	太田哲朗
7/29	山陰中央新報	国際宇宙ステーションを見よう	竹内幹蔵
8/5	島根日日新聞	企画展がはじまりました!	星野由美子
8/12	山陰中央新報	大三角の中の星を数えてみて	竹内幹蔵
8/19	島根日日新聞	西の原で秋の七草を探そう	井上雅仁
8/23	読売新聞	満ち欠け まるでお月様	太田哲朗
8/26	山陰中央新報	星の動き	竹内幹蔵
9/2	島根日日新聞	撮ってみよう!星のある風景写真	矢田猛士
9/9	山陰中央新報	誕生星座はいつ見える?	竹内幹蔵
9/16	島根日日新聞	クロオオアリ	皆木宏明
9/20	読売新聞	動物色々ホネホネ展	安藤誠也
9/23	山陰中央新報	中秋の名月	竹内幹蔵
9/30	島根日日新聞	ホネの学校	安藤誠也
10/7	山陰中央新報	フォーマルハウト	竹内幹蔵
10/14	島根日日新聞	フィルム映画	太田哲朗
10/18	読売新聞	海岸とハマベノギク	井上雅仁
10/21	山陰中央新報	肉眼で楽しむ惑星	竹内幹蔵
10/28	島根日日新聞	「さんベホネホネ研究所」が終了です	星野由美子
11/4	山陰中央新報	二重星団	竹内幹蔵
11/11	島根日日新聞	いつが見頃? 三瓶山の紅葉	井上雅仁
11/15	読売新聞	カワラヒワ	星野由美子
11/18	山陰中央新報	カペラ	竹内幹蔵
11/25	島根日日新聞	うお座のうずまき銀河 M74	矢田猛士
12/2	山陰中央新報	冬の流星群	竹内幹蔵
12/9	島根日日新聞	カメムシと雪	皆木宏明
12/16	山陰中央新報	高く昇る冬の満月	竹内幹蔵
12/20	読売新聞	青い雪玉	矢田猛士
12/30	山陰中央新報	星はすばる	竹内幹蔵

掲載日	掲載紙	タイトル	担当
1/6	島根日日新聞	大学生の博物館実習を開催	安藤誠也
1/13	山陰中央新報	「三瓶廻り」カノープス	竹内幹蔵
1/20	島根日日新聞	猿の鳥?	星野由美子
1/24	読売新聞	サルと名のつく昆虫	皆木宏明
1/27	山陰中央新報	冬の1等星	竹内幹蔵
2/3	島根日日新聞	三瓶自然館のお宝って?	井上雅仁
2/10	山陰中央新報	月が見えるころとその影	竹内幹蔵
2/17	島根日日新聞	サヒメルは宝箱	矢田猛士
2/21	読売新聞	日食と幻日	太田哲朗
2/24	山陰中央新報	日食を見よう	竹内幹蔵
3/2	島根日日新聞	博物館の昆虫標本	皆木宏明
3/9	山陰中央新報	プレセペ星団	竹内幹蔵
3/16	島根日日新聞	渚で宝物探し	安藤誠也
3/20	読売新聞	お宝大公開	安藤誠也
3/23	山陰中央新報	木星としし座	竹内幹蔵
3/30	島根日日新聞	新しいドーム映像スタート	太田哲朗

II. 島根県立三瓶自然館 ⑩天体観察会 b 予約天体観察会

月	日	団体名	人数
4	10	三次市立塩町中学校	67
	16	広島市立向原高等学校	78
	16	三次市立君田中学校	18
	16	三次市立三良坂中学校	26
	17	三次市立吉舎中学校	30
	19	文教女子大付属高等学校	196
	27	三次市立川地中学校	23
	27	三次市立甲奴中学校	29
	29	広島医療保険専門学校	18
	30	広島情報専門学校	115
5	15	広島生活福祉専門学校	15
	17	広島市立祇園東中学校	254
	18	広島市立牛田中学校	198
	20	出雲市立長浜小学校	54
	21	五十猛・静間・鳥井小学校	30
	27	広島市立城南中学校	283
6	12	大田市立西中学校	63
	17	松江だんだん宿泊研修	32
	17	府中市立南小学校	36
	18	大田市立池田小学校	29
	22	広島市立祇園中学校	353
	24	三次市立三次小学校	58
	25	特別支援学級松江市Cブロック 宿泊研修	34
7	2	広島市立亀山南小学校	87
	8	広島市立大町小学校	134
	8	広島市立飯室小学校	22
	9	広島大学付属三原中学校	84
	19	荘原剣道スポーツ少年団	17
	19	出雲市立斐川西中科学部	23
	19	広子ども連合会	48
	21	広島市立古市小学校	96
	21	岡山行楽館高校	45
	22	広島市立長塚西小学校	47
	22	広島市立可部南小学校	75
	24	広島市立幟町小学校	95
	24	広島市立毘沙門台小学校	63
	26	広島市立上安小学校	56
	27	波多交流センター	34
	27	広島市立似島小学校	19
	27	尚風館	24
	28	山村留学センター	29
	28	すずみ子ども会	20
	30	浜田児童相談所	13
8	2	波多コミュニティセンター	64
	2	三次市立川地・青河小学校	26
	2	広島市立日浦小学校	55

月		団体名	人数
8	4	稗原コミュニティセンター	21
	4	神西コミュニティセンター	29
	4	スマイルキャンプ	32
	4	広島市立五日市中央小学校	101
	6	広島県体育協会	45
	6	庄原市立永末小学校	23
	6	三次市立栗屋小学校	11
	7	教員免許状更新講習	39
	9	庄原市立峰田小学校	14
	9	広島パスファウンダークラブ	14
	9	岡山大学科学さきどりグロー バルキャンパス岡山	40
	16	山村留学センター	11
	18	山田あきひこピアノ教室	28
	18	庄原市立比和小学校	9
	23	府中町立府中東小学校	65
	24	出雲市立神門幼稚園	23
	24	広島市立鈴張小学校	30
	24	庄原市立板橋小学校	29
	24	広島市立古田台小学校	46
	26	広島市立宇品小学校	196
	27	広島市立千田小学校	107
	28	庄原市立総領小学校	13
	28	たちばな保育園	44
	30	松江高等技術専門学校	39
9	2	広島市立みどり坂小学校	176
	3	鳥取大学合気道部	20
	4	出雲市立大社幼稚園	21
	9	広島市立本川小学校	72
	9	広島市立落合東小学校	61
	11	個人グループ	27
	13	雲南市立寺領小学校	32
	16	大田高校サイエンスセミナー	28
	16	広島市立観音中学校	215
	17	浜田市立三隅中学校	46
	18	神門第Ⅱ保育園	17
10	7	庄原市立山内小学校	10
	7	雲南市立木次小学校	23
	14	大田市立三班小学校連合	28
	14	広島市立彩が丘小学校	52
	15	米子工業高等専門学校	129
	16	美郷町立邑智小学校親子活動	73
	22	開星中学・高等学校	188
11	22	広島中学校理科若手研究会	26
1	27	学校法人なぎさ公園小学校	89
2	5	出雲市立高浜幼稚園	33
3	20	出雲科学館子ども天文クラブ	36
合	計	92	5, 616

II. 島根県立三瓶自然館 ①自然観察会 b 予約自然観察会

т.	كراري		D 3 W
月	目	団体名	人数
4	22	大田市立北三瓶小学校	5
	24	飯南町立志々小学校	20
	30	雲南市立斐伊小学校	49
5	1	邑南町立口羽小学校	39
	8	江津市立津宮小学校	62
	20	美郷町立大和中学校	18
6	6	広島市安佐動物公園	55
	6	石見銀山とり、むし、はなし、研 究会	9
	7	松江市内中原5区町内会	22
	11	浜田市立国府小学校	225
	28	新庄村自然保護連絡協議会	21
7	9	益田高校スーパーサイエンスス クール	85
	10	広島大学付属三原中学校	84
	12	広島こども科学館スーパーサイ エンススクール	6
	21	安田学園安田小学校	95
	22	安田学園安田小学校	96
	28	尚風館	23
	30	加茂児童クラブ	42
8	4	稗原コミュニティセンター	21
	4	山村留学センター	13
	5	加茂児童クラブ	27
	7	加茂児童クラブ	23
	10	岡山大学科学さきどりグローバ ルキャンパス岡山	37
	17	遙堪児童クラブ	26
	22	長久自然観察会	16
	29	五十猛保育園	9
	31	庄原市立総領小学校	13
9	2	出雲市立高松小学校	120
	3	大田市立川合小学校	28

WENDS.			
月	目	団体名	人数
	4	大田市立川合小学校	27
	25	出雲市立窪田小学校	19
	25	雲南市立田井小学校	34
10	2	江津市立川波小学校	14
	7	大田市立朝波小学校	23
	7	美郷町立大和小学校	13
	8	出雲市立大社小学校	39
	8	川本町立川本小学校	27
	9	江津市立桜江小学校	35
	9	江津市立江津東小学校	46
	9	大田市立川合小学校	14
	14	大田市立高山・大森小学校	27
	14	大田市立北三瓶小学校	19
	15	川合保育園	25
	15	飯南町立赤名小学校	22
	22	開星中学校	188
	23	サンチャイルドさわらび園	24
	26	矢上町立矢上公民館	21
	29	さくら保育園・あさり保育園	28
	29	邑南町立石見東・矢上・日貫 小学校	43
	29	飯南町立志々小学校	6
	30	出雲市立須佐小学校	17
	30	大田市立北三瓶小学校	5
11	18	大田市立久屋小学校	10
	25	大田市立大田小学校	31
	27	邑南町立阿須名小学校	12
12	17	飯南町立頓原小学校	10
1	27	学校法人鶴学園なぎさ公園小 学校	89
2	6	出雲市立高浜幼稚園	17
合	計	57	2159

Ⅱ.島根県立三瓶自然館 ①環境教育、環境学習事業 館内案内・テーマ解説

月	日	団体名	人数
4	27	万木郷土史愛好会	27
5	8	神西幼稚園	49
	16	島根大学生物資源科学部	25
	22	大田市立鳥井小学校	33
	29	神石高原町立来見小学校	24
6	11	浜田市立国府小学校	225
	12	邑南町立石見東小学校	23
	26	特別支援学級松江市Cブロック	34
	20	宿泊研修	34
7	3	青空保育園	47
	15	大田市立北三瓶小学校	19
	21	三次中央保育園	73
	27	五日市南小学校	151
	29	JA広島市レディースクラブ落	39
	23	合支部	0.0
8	3	三次市立川地小学校	26
	4	稗原コミュニティセンター	21
	5	作木町自治連合会子供会	37
	11	庄原市立峰田小学校	16
9	10	雲南市立鍋山小学校	24
	16	出雲市立佐田中学校	34
	16	江津市立桜江中学校	52
	17	川本町立川本小学校	21

月	月	団体名	人数
9	25	出雲市立窪田小学校	19
	25	出雲市立田儀小学校	38
10	7	浜田市立今市小学校	14
	8	出雲市立大社小学校	39
	8	川本町立川本小学校	27
	8	大田市立北三瓶小学校	2
	9	江津市立桜江小学校	35
	9	江津市立江津東小学校	46
	9	大田市立川合小学校	14
	15	飯南町立赤名小学校	22
	16	大田市立五十猛小学校	35
	17	大田市サロン活動おたべの会	15
	21	静間保育園	21
11	19	石見智翠館高等学校	29
	22	広島中学校理科若手研究会	20
	25	大田市立大田小学校	30
	27	邑南町立阿須名小学校	12
12	17	飯南町立頓原小学校	10
2	1	島根県退職者互助会松江地区 会	7
	19	原浜保育所	58
合	計	46	1493

II. 島根県立三瓶自然館 (②環境教育、環境学習事業 講師派遣

月	日	団体名	場所	内容	講師	人数
4	10				安藤	
4	16	キリスト教愛真高等学校	キリスト教愛真高等学校	植物の観察、採集、試食	松原	18
5	2	イワミ村田製作所	イワミ村田製作所	巣箱作り教室での野鳥の生態の講話	星野	20
	9	石見銀山資料館・家の女たち	大森の町並み	町歩きイベントでの野草観察の指導	井上	20
	23	樹冠ネットワーク	川越生活改善センター	竹についての講話	井上	25
	24	津和野公民館・地倉沼を守る会	地倉沼	チョウジソウ観察会での解説	井上	50
	28	大田市立池田小学校	大田市立池田小学校	三瓶山の自然についての講話	井上	10
	30	島根大学ミュージアム	松江スティックビル	市民講座「山と川をめぐる自然史と 文化」での講話	中村	33
6	12	邑南町公民館連絡協議会	ほたるの館	ゲンジボタル学習会での講話	皆木	50
	25	大田市立池田小学校	ファーム浮布の水田	田んぼの生き物観察	皆木	7
7	26	波多コミュニティ協議会	さえずりの森	昆虫観察会	皆木	12
8	3	波多コミュニティ協議会	さえずりの森	昆虫観察会	皆木	13
	9	心光院サマースクール実行委 員会	心光院	サマースクールでの講話	安藤	50
	12	島根大学生物資源科学部	島根大学三瓶演習林庁舎	「基礎フィールド演習」における昆 虫類調査の指導	皆木	25
	20	島根県立吉賀高等学校	島根県立吉賀高等学校	高津川のホタルの生態についての聞 き書き	皆木	5
	23	邑南町公民館連絡協議会	田所公民館	ハッチョウトンボ観察会での講話	皆木	30
9	2	美郷町立邑智小学校	高畑自治会館	無農薬田んぼの生き物調査	皆木	36
	10	大田ロータリークラブ	プラザホテルさんべ	子ども達への環境教育について	安藤	25
	13	小田真木地区活動組織	ふるさと回想館	農地周辺の外来生物の状況調査	井上	10
10	2	浜遊自然館	浜遊自然館	秋の星空観察会の指導	矢田	15
	3	国立三瓶青少年交流の家	三瓶自然館	ホネについてのワークショップ講師	安藤	20
	10	島根県自然環境課	三瓶自然館	野鳥観察の基礎・マナーについての 講話	星野	25
	14	大田市立大田小学校	大田市立大田小学校	三瓶川の生き物についての講話	皆木	78
	14	環境省米子自然環境事務所	休暇村蒜山	草原保全シンポジウムのパネラーと して	井上	30
	19	島根県立浜田高等学校	島根県立浜田高等学校	博物館学芸員の仕事についての講話	皆木	64
	26	石見銀山地質研究会	仁万海岸	理科学習での路頭見学のための事前 調査	遠藤	3
	27	大田市立池田小学校	三瓶山西の原	ヒロハノカワラサイコについての学 習	井上	12
	29	邑南町口羽公民館	上ケ畑集会所	上ケ畑遺跡の石灰石についての講話	中村	50
11	7	島根県山岳連盟	三瓶青少年交流の家	三瓶の自然についての講話	中村	30
	29	島根県退職公務員連盟大田支 部	大田市民センター	三瓶の自然についての講話	中村	30
12	4	島根大学	島根大学	三瓶自然館について	中村	200
	7	環境省中国四国地方環境事務 所	米子市文化ホール	指定植物保全シンポジウムのパネラ ーとして	井上	60
	13	グランドワーク大山蒜山	智頭町保健医療福祉総合 センター	山歩き・里歩きフォーラム鳥取での 三瓶山の紹介	井上	15
	14	県央地区所長会議	あすてらす	三瓶の火山についての講話	中村	20
1	16	子どもエコクラブ上津探検隊	上津コミュニティセンタ	ホタルの暮らしと環境についての講 話	皆木	40
2	27	長久まちづくりセンター	長久まちづくりセンター	野鳥観察会の指導	星野	22
3	15	島根県理数科教育研究会	大田高等学校	理数科課題研究発表会の審査員	龍	70
	16	国立三瓶青少年交流の家	国立三瓶青少年交流の家	接遇研修の講師	大草	15
19	• 20	公益財団法人日本自然保護協会	岡山県立渋川青年の家	NACS-J 自然観察指導員講習会の講師	星野	38
	20	川本町自然大好きネットワー ク	川本町谷戸	イズモコバイモ観察会での講話	葭矢	30
	21	川本町自然大好きネットワー ク	川本町谷戸	イズモコバイモ観察会での講話	葭矢	15
合	計				58	1, 321

6. 評議委員会・理事会等

1. 評議員会

①第8回評議員会(平成27年度定時評議員会)

・開催日:平成27年6月24日 ・開催場所:島根県立三瓶自然館

・出席数:評議員6名、監事1名

・議 題:報告事項 事業概況

第1号議案 平成26年度事業報告及び決算報告の件

第2号議案 任期満了に伴う理事及び監事選任の件

第3号議案 任期満了に伴う評議員選任の件

第4号議案 評議員改選に伴う評議員会議長選定の件

・結 果:全号とも原案どおり承認

②第9回評議員会(臨時評議員会)

• 開催日: 平成28年3月14日

· 開催場所: 大田市民会館第二会議室

·出席数:評議員6名、監事2名

・議 題:報告事項1 平成27年度事業概況について

報告事項2 平成27年度予算補正の件

報告事項3 平成28年度事業計画及び予算の件

・結 果:全号とも原案どおり承認

2. 理事会

①第 13 回理事会(平成 27 年度第 1 回定時理事会)

• 開催日: 平成27年5月25日

· 開催場所: 島根県立三瓶自然館

・出席数:理事4名、監事1名

・議 題:報告事項 理事長及び常務理事の職務執行状況

第1号議案 平成26年度事業報告及び決算報告の件

第2号議案 第8回評議員会(定時評議員会)の招集に関する件

第3号議案 任期満了に伴う三瓶自然館運営委員選任の件

・結 果:全号とも原案どおり承認

②理事会(決議の省略)

· 開催日: 平成27年6月24日

· 議 決 数:理事5名

・議 題:第1号議案 役員改選に伴う理事長及び常務理事選定の件

第2号議案 重要な職員の任用に関する件

・結 果:原案どおり承認

③理事会(決議の省略)

· 開催日: 平成28年2月7日

·議 決 数:理事5名

・議 題:第1号議案 第9回評議員会の開催について

・結 果:原案どおり承認

④第 14 回理事会(平成 27 年度第 2 回定時理事会)

• 開催日: 平成28年3月14日

· 開催場所: 大田市民会館第二会議室

・出席数:理事5名、監事1名

・議 題:報告事項 理事長及び常務理事の職務執行状況

第1号議案 平成27年度予算補正の件

第2号議案 平成28年度事業計画及び予算の件

第3号議案 規程改正に関する件

・結果:全号とも原案どおり承認

3. 三瓶自然館運営委員会

本委員会は、当財団が指定管理者として島根県立三瓶自然館及びその附属施設を運営するにあたり、島根県の自然系博物館としてのあり方や、広く県民に親しまれ利用される方策について協議するための、外部委員による会である。

第5回運営委員会

· 開催日: 平成27年11月27日

· 開催場所: 島根県立三瓶自然館

・出席数:10名

・概 要:三瓶自然館の運営状況と課題について意見交換を行った。主な内容は、三瓶自然館と付属施設の利用促進、三瓶自然館に望まれる展示についてなど。

